

平成30年度

本宮市教育委員会の事務に関する

点検・評価報告書

(平成29年度事業)

本宮市教育委員会

目次

I 点検・評価制度の概要	
1 目的	1
2 対象事業	1
3 実施方法	1
4 学識経験者の知見の活用	2
II 平成29年度評価対象事業	3
III 学識経験者の意見	4
IV 点検・評価の結果	12
1 子どもの主体性を育てる幼児教育の充実	
(1) 人とのかかわりを通した豊かな心の育成	
① 保育所事業	13
② 幼稚園管理運営事業	15
③ 幼稚園読書活動推進事業	17
④ ブックスタート事業	18
(2) 体を動かす遊びを通した健やかな体の育成	
① 保育所入所児健康づくり推進事業	19
② 幼稚園児健康づくり推進事業	21
(3) 一人一人の育ちにあった教育の推進	
① 障がい児保育事業（保育所）	23
(4) ニーズに応じた地域子育て支援の充実	
① 一時保育事業（保育所）	24
② 延長保育事業（保育所）	25
③ 預かり保育事業（幼稚園）	26
④ 地域子育て支援拠点事業（センター型）	27
2 子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実	
(1) 人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成	
① キャリア教育推進事業	28
② 体験活動促進事業	29
③ 小学校読書活動推進事業	30
④ 中学校読書活動推進事業	32
⑤ 小学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業	33
⑥ 中学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業	34
⑦ スクールソーシャルワーカー設置事業	36
⑧ 学校復帰支援事業	38
(2) 思考力・判断力・表現力と課題解決能力の育成	
① 学力向上対策事業	39
(3) 心身の健全な成長を目指す教育の推進	
① 小学校児童健康づくり推進事業	41
② 中学校生徒健康づくり推進事業	43
(4) 子ども一人一人の障がいの状態や発達段階に応じた指導の充実	
① 特別支援教育支援員配置事業	44
(5) 震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進	
① 小中学校学校教育事業等助成事業	45
② 通園通学支援事業	47

3	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援	
	(1) 共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進	
	① 成人教育事業	48
	② 女性教育事業	50
	③ 高齢者教育事業	51
	(2) 健康で活力ある人生につながる生涯スポーツの推進	
	① 市民競技力向上対策事業	52
	② スポーツ推進委員活動事業	53
	(3) 「本と友だちになれるまち もとみや」を目指した活動の推進	
	① しらさわ夢図書館運営事業	54
	(4) 学校と地域を結ぶ社会教育活動の充実	
	① 青少年健全育成推進大会事業	56
	② 放課後子ども教室推進事業	57
	(5) 文化や芸術に親しみ活動する機会の充実	
	① 文化芸術行事開催事業	59
	(6) 本宮市の歴史と文化の継承と発信	
	① 文化財・史跡保存事業	61
4	安全で安心して学べる教育環境の確保	
	(1) 安全な教育施設の整備	
	① 学校施設等耐震化推進事業	63
	(2) 安全・安心な教育環境の確保	
	① 学校給食放射性物質検査事業	64
○	教育委員会運営事業	65

I 点検・評価制度の概要

1 目的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされている。

本宮市教育委員会では、同法の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行に係る点検評価（以下「点検評価」という。）を実施するものである。

2 対象事業

本市では、教育基本法第17条第2項に基づき、市の実情に応じた教育の振興に関する施策の総合的・計画的な推進を図るため、平成25年度に「本宮市教育振興基本計画」（以下「教育振興基本計画」という。）を策定した。

点検評価の対象事業は、教育振興基本計画の施策体系に基づき、平成29年度教育委員会重点施策に位置付けた事業を対象とした。

3 実施方法

点検評価の実施にあたっては、対象事業の実施状況を明らかにするとともに、今後における課題・改善点を示し、自己評価を行った。

なお、評価基準については、自己評価による事務事業のランク分けをわかりやすくするため、S・A・B・Cの4段階とする見直しを行った。

ランク	評価基準
S	目標を上回って達成した。 事務事業として計画を上回る成果を挙げた。
A	目標のとおり達成した。 事務事業として計画通りの成果を挙げた。
B	目標をやや下回った。 事務事業として計画通りの成果が挙げられなかった。
C	目標を大きく下回った。 事務事業としてほとんど成果が挙げられなかった。

4 学識経験者の知見の活用

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定による学識経験を有する方の知見の活用については、外部の学識経験者で構成する本宮市教育事務評価委員会を設置し、教育委員会の自己評価及びその評価方法に対する評価や、今後の教育行政に向けての意見を聴いた。

○本宮市教育事務評価委員会委員

	委員名	関係所属等
委員長	小澤 悌一	学校教育関係
副委員長	佐藤 カネ子	文化団体連絡協議会
委員	小濱 伸	学校教育関係
委員	桜井 弘和	社会体育関係
委員	渡辺 喜浩	保護者代表

II 平成29年度評価対象事業一覧

基本目標	施策	事業名	評価	課等	係	
I 子どもの主体性を育てる幼児教育の充実	1 人とのかかわりを通じた豊かな心の育成	保育所事業	A	幼保学校課	幼保教育係	
		幼稚園管理運営事業	A	幼保学校課	幼保教育係	
		幼稚園読書活動推進事業	A	幼保学校課	幼保教育係	
		ブックスタート事業	A	白沢公民館	社会教育係	
	2 体を動かす遊びを通じた健やかな体の育成	保育所入所児健康づくり推進事業	A	幼保学校課	幼保教育係	
		幼稚園児健康づくり推進事業	A	幼保学校課	幼保教育係	
	3 一人一人の育ちにあった教育の推進	障がい児保育事業(保育所)	A	幼保学校課	幼保教育係	
	4 ニーズに応じた地域子育て支援の充実	一時保育事業(保育所)	A	幼保学校課	幼保教育係	
		延長保育事業(保育所)	A	幼保学校課	幼保教育係	
		預かり保育事業(幼稚園)	A	幼保学校課	幼保教育係	
		地域子育て支援拠点事業(センター型)	S	幼保学校課	幼保教育係	
	II 子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実	1 人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成	キャリア教育推進事業	S	幼保学校課	学校教育係
			体験活動促進事業	A	幼保学校課	学校教育係
小学校読書活動推進事業			B	幼保学校課	学校教育係	
中学校読書活動推進事業			B	幼保学校課	学校教育係	
小学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業			A	幼保学校課	学校教育係	
中学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業			A	幼保学校課	学校教育係	
スクールソーシャルワーカー配置事業			A	幼保学校課	学校教育係	
学校復帰支援事業			A	幼保学校課	学校教育係	
2 思考力・判断力・表現力と課題解決能力の育成		学力向上対策事業	B	幼保学校課	学校教育係	
		3 心身の健全な成長を目指す教育の推進	小学校児童健康づくり推進事業	B	幼保学校課	学校教育係
中学校生徒健康づくり推進事業			A	幼保学校課	学校教育係	
4 子ども一人一人の障がいの状態や発達段階に応じた指導の充実		特別支援教育支援員配置事業	B	幼保学校課	学校教育係	
		5 震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進	小中学校学校教育事業等助成事業	A	幼保学校課	学校教育係
通園通学支援事業			A	幼保学校課	学校教育係	
成人教育事業			A	中央公民館	社会教育係	
III 未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援		1 共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進	女性教育事業	B	中央公民館	社会教育係
			高齢者教育事業	A	中央公民館	社会教育係
			市民競技力向上対策事業	A	生涯学習センター	社会体育係
		2 健康で活力ある人生につながる生涯スポーツの推進	スポーツ推進委員活動事業	A	生涯学習センター	社会体育係
	3 「本と友だちになれるまち もとみや」を目指した活動の推進		しらさわ夢図書館運営事業	A	白沢公民館	社会教育係
		4 学校と地域を結ぶ社会教育活動の充実	青少年健全育成推進大会事業	A	生涯学習センター	社会教育係
	放課後子ども教室推進事業		A	生涯学習センター	社会教育係	
	5 文化や芸術に親しみ活動する機会の充実	文化芸術行事開催事業	A	生涯学習センター	文化振興係	
		6 本宮市の歴史と文化の継承と発信	文化財・史跡保存事業	A	生涯学習センター	文化振興係
	IV 安全で安心して学べる教育環境の確保	1 安全な教育施設の整備	学校施設等耐震化推進事業	A	教育総務課	教育施設係
		2 安全・安心な教育環境の確保	学校給食放射性物質検査事業	A	幼保学校課	学校教育係
			教育委員会運営事業	A	教育総務課	総務係
		評価事業 38事業				

Ⅲ 学識経験者の意見

Ⅲ 学識経験者の意見

基本目標Ⅰ 子どもの主体性を育てる幼児教育の充実

【施策1】人とのかかわりを通した豊かな心の育成

《意見》

保育士（臨時職員）の確保の困難や0歳児の待機児童の発生等課題は抱えているものの、本市独自の幼保共通カリキュラムによる保育事業を展開、さらに「すこやか子育て相談室」を通して自宅で子育てしている保護者に対しても子育て支援を行うなど、きめ細やかな子育て支援は高く評価できる。

10カ月健診の機会を活用したブックスタート事業を中核に据えつつ、3～4カ月健診でのプレブックスタート、さらに1歳6カ月と3歳児健診でも絵本を配付し、ブックスタート事業の更なる充実を図っていることは評価できる。

《課題》

育児休業中に係る乳幼児数等の情報を関係部署（福祉・保健）との連携により把握し、10月1日の基準日における待機児童ゼロを目指して、そのための保育士の確保について努力いただきたい。

昨年度も指摘したことであるが、対象保護者へのアンケート調査を実施し、ブックスタート事業の検証を試みる必要がある。

【施策2】体を動かす遊びを通した健やかな体の育成

《意見》

市民や保護者にとって、まだまだ放射線の影響が心配な状況の中、健康安全を配慮し、遊びを通した各種体力づくりの事業は効果的であったと思われる。この成果を次年度以降も継続し、健やかな体の育成をさらに推進していただきたい。

【施策3】一人一人の育ちにあった教育の推進

《意見》

保育事業の段階で障がい児保育に取り組むことは、スムーズな就学指導に繋がるものであり重要である。低年齢のため、障がい児と判断することが難しく、加えて保護者の理解を得るのも困難といった難しい課題がある中、担当保育士を確保し障がい児保育に取り組んでいることは評価できる。本年度決算額が昨年度と比して5割程度増えていることから本市が本事業に力を入れていることが伺える。

《課題》

「課題・改善点」にもあるように、保健・福祉担当部署やSSWとの連携、さらには専門機関との連携も図りつつ、該当児童保護者の理解が得られるよう今後も努力されることを期待したい。

【施策4】ニーズに応じた地域子育て支援の充実

《意見》

女性の社会進出（就労等）やライフスタイルの変化は、市民の行政に対する子育て支援へのニーズを多様なものになっている。一時保育、延長保育、預かり保育など、限られた予算と人員のもとでそれらのニーズに応えようとしている行政側の努力を評価したい。

施設に入所・入園していない家庭保育の保護者や子どもを対象にした地域子育て支援拠点事業は、年々利用者が増加している。その背景には本事業への市民への周知徹底はもとより、魅力ある事業内容の工夫によって利用者の理解が深まってきたためではないかと思われる。行政側の努力を高く評価したい。

《課題》

核家族化や少子化は子育てに疲れ悩む保護者を生み出し、それが児童虐待などの社会問題へと繋がっていると指摘されている今日、本事業の果たす役割は重要である。地域子育て支援事業のさらなる充実を目指して努力されることを期待したい。

基本目標Ⅱ 子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実

【施策1】人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成

《意見》

キャリア教育推進事業において、毎年著名人やその道で一流と呼ばれる人たちから様々なことを学ぶ機会を与えたり、本年度は特に「全国へそのまち・子ども交流事業」に小学生を派遣し同年代の子どもたちとの交流の機会を与えたりするなど、子どもの感性や情操を豊かにし生きる力の育成への積極的な取り組みは高く評価できる。

小・中文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業では、各種コンクールへの参加経費や負担金を支援することで、保護者の負担軽減はもちろん、学校・子どもの積極的な参加意欲にもつながっており、各種コンクールの実績がそのことを物語っている。

S S W配置事業では、S S Wを市単独の通年雇用とし、子どもが抱える様々な諸問題に対し、子ども本人はもちろん、保護者や教師に対しても適切にアドバイスできるように配慮しており、問題解決に大きく寄与していると評価できる。特に、活動実績の中で、諸問題の件数が昨年度と比して大きく増加していることは問題行動が急増したのではなく、今まで気づけなかった問題行動が見えてきたためであり、早期問題解決という視点からむしろ望ましいことと言えよう。

学校復帰支援事業では、適応指導教室に通う子どもの数が年々増加し、教室への理解が定着しつつあることが分かる。本年度は7名の生徒が在籍し、うち4名が進学し、2名が学校復帰を果たすなど確実に成果をあげている。

《課題》

小・中学校読書活動推進事業では、今後は100%の図書充足率を目指し、そのための財源確保をお願いしたい。

学校復帰支援事業においては、「課題・改善点」に記されているように、問題なのは適応教室に通わずに長期欠席を続けている児童生徒への対応である。保護者・学校・S S W及び専門機関等との連携を密にしながら、根気強く対応していくことが望まれる。

国内交流派遣事業において、参加できるのが各校1名のみとなっており、今後は多くの小学生に参加機会を与えていただきたい。

【施策2】思考力・判断力・表現力と課題解決能力の育成

《意見》

学力向上対策事業では、諸検査結果を分析し、本市における問題点と課題を明らかにし、その結果をもとに、年2回の学力向上委員会、中学校区ごとの研修会や授業研究会、さらには年5回の外部講師による研修会を開催し、各学校の学力向上に向けた取り組みを推進している。その結果、全国標準学力検査では小中学校ともに全国平均を上回り、市総合計画後期目標値（小学校54.0、中学校51.0）と同程度の成果をあげていることは評価できる。

《課題》

学力向上対策事業への自己評価がB、チャレンジ学習への参加率が目標値80%に達していないことがその主な理由である。1000円の補助があるとはいえ保護者の負担は大きく、特に貧困家庭については家計に大きな負担になることが予想される。ゆえに、検定にチャレンジする子どもの割合を更に向上させるには援助額を上げるなどの予算的配慮が必要である。

【施策3】心身の健全な成長を目指す教育の推進

《意見》

小・中学校ともに市からの補助金を有効に活用し、小学校では「歯科・食育」に関するもの、中学校では「食育」「性に関する教育・薬物乱用防止」に関する内容が多く取り上げられており、発達段階に応じた内容を適切に設定している。加えて、昨年度一校あたりの補助金が2万円減額され、さらなる減額が懸念されたが、本年度従来の20万円に戻ったことは評価できる。

《課題》

スポーツテストに関しては、小・中学校ともに補助金を活用して実施しており、中学生については、体力テストの結果が昨年度を上回るなどの成果をあげている。ただ小学生については、小学1～5年生の体力テストの結果が軒並み下がっているとのことから、その原因をしっかりと分析し、対応が必要と考える。

【施策4】子ども一人一人の障がいの状態や発達段階に応じた指導の充実

《意見》

LDやADHD等の障がいを持つ児童生徒はどの学校にも在籍し、その子どもの保護者の多くは普通学級での生活を希望する。保護者の気持ちからすれば当然のことである。その結果、学校（担任）は一人の子どもに大きな労力と時間をかけることを余儀なくされる。本事業はそういう学校にとって大きな助けとなるとともに保護者にとっても安心して我が子を学校に通わすことができ本事業の教育的価値は非常に高いと評価できる。加えて、対象児童生徒が増えたことで昨年度は10名の配置であったが本年度は14名の配置となり、行政の財政負担は昨年度と比して大きく増額されていることから見ても、行政が本事業を重視していることが理解でき、高く評価できる。

《課題》

障がいの様相は様々であり一人の支援員が複数の子どもに対応しなければならない場合は要注意である。ゆえに子どもの障がいに適切に対応できるよう支援員の資質向上を図るとともに、

できるだけ特別支援教室の有資格者の配置及び支援員の増員・継続雇用をお願いしたい。

【施策5】震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進

《意見》

小・中学校学校教育事業等助成事業では、各学校が交付された補助金を有効に活用し、自校の実情に即した様々な活動を展開している。学校独自では予算的に実施不可能な活動も、本事業の補助金のおかげで保護者に負担をかけないで実施でき、様々な体験活動や講演会等を通して先人の貴重な話を聞いたり、様々な芸術に触れたり、子どもの豊かな心の成長に大きく貢献しているものと評価できる。

《課題》

園・学校内で起きる事故に比べ通園通学時の事故は多い。ゆえに、通園通学時の安全対策は不可欠であり通園通学支援事業は重要である。4千万円弱の財政負担は行政にとって大変であろうが、十分な財源確保を他の事業より優先的にお願いしたい。

基本目標Ⅲ 未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援

【施策1】共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進

《意見》

成人・女性・高齢者教育事業では、趣味・趣向が多様化し、かつ個人のレベルで簡単に楽しめる今の時代、魅力ある講座・講師を設定しない限り人は集まらないしそれにはお金がかかる。だが3つの事業合わせても50万円そこそこの予算では出来ることが限られる。そういう中で、成人教育では市民へのアンケート調査や他自治体を参考にしたり、女性教育事業では満足度90%を得てリピーターを確保したり、高齢者教育事業でもアンケート調査をもとにした計画立案により高い満足度を得るなど、苦労しながらも努力していると評価したい。

《課題》

本事業の成果は、参加者数の多少ではなく、参加者の事業への満足度である。受講者数を増やすことは大切であるが、それよりも受講者に受講してよかったと言ってもらえるような内容に少しでも改善し、それが口コミで広がり仲間が増えていくことを願う。

生涯学習の重要性に鑑み、成人・女性・高齢者教育事業の継続推進に努めていただきたい。特に、女性教育事業の受講生の確保、参加者の増加のための魅力ある開設講座の工夫に努めていただきたい。

【施策2】健康で活力ある人生につながる生涯スポーツの推進

《意見》

市民競技力向上対策事業では、一流選手の指導により競技力と競技意欲向上につながったものと評価できる。また、スポーツ推進委員活動事業では、推進委員の協力により各種大会が実施され、地域スポーツの活性化に寄与したものと評価できる。

《課題》

少ない回数で参加者を確保するにはチーム競技を対象にするのが手っ取り早い。しかし、個

人競技も重要なスポーツである。予算的な問題はあるがチーム競技のみに偏りの無いよう配慮し、年2～3回開催されたい。

専門家を招き指導されている分野もあるが、対象がある程度限定されている感がみられる。一般市民の方が多く参加できる「ニュースポーツ祭」など検討されたい。

【施策3】「本と友だちになれるまち もとみや」を目指した活動の推進

《意見》

しらさわ夢図書館が幼稚園、保育所、小中学校などと連携されており、各学校への出張おはなし会やブックトーク開催など読書の魅力を発信し、子供たちへの読書推進に貢献しているものと評価できる。

《課題》

しらさわ夢図書館運営事業がさらに向上できるよう、出張おはなし会の回数を増やしたり、また学校司書の今以上の有効活用を図ったりして、児童生徒の読書活動の推進充実をお願いしたい。

【施策4】学校と地域を結ぶ社会教育活動の充実

《意見》

青少年健全育成推進大会事業では、昨年度に引き続き本年度も「少年の主張」に高校生が参加したことを評価したい。本事業は、地域をあげて子どもたちの健全育成を図っていくことを市民みんなで再確認することが大きなねらいであり、市民総ぐるみ運動の一環でもある。300名という多くの参加者のもと開催されたことは評価できる。

放課後子ども教室推進事業では、定員の枠を超えた申し込みがあり、参加率が年々向上していることから、本事業が子ども・保護者から一定の評価を得ていることがわかる。そこには、地域の方々との触れ合いや子どもたちにとって楽しい活動があるからだと思う。遊友クラブ運営委員会及び本事業を支えるボランティア協力員の努力を評価したい。

《課題》

青少年健全育成推進大会へ大学生や若い社会人にも参加してもらい、その考えを小・中学生に聞かせることも意義があると思われるので、検討いただきたい。

放課後子ども教室の有用性は言うまでもないので、活動推進員・安全管理員の確保、人材育成、活動内容の充実を図るとともに、放課後の子どもの安全な居場所として地域の人々と触れ合うことにより、社会のルール等が身につくことから継続を願う。

【施策5】文化や芸術に親しみ活動する機会の充実

《意見》

音楽、劇、映画、民俗芸能、作品展示、かるた大会など内容が多岐にわたり、個人の興味関心に応じた参加ができることが本事業の魅力である。このことは、参加者数が一定水準確保できていること、参加した市民へのアンケート調査が高い満足度を示していることから理解でき、担当者の努力を評価したい。

《課題》

今後も魅力ある企画・運営を工夫し、事業参加者満足度アップにつなげていただきたい。また幼保・小中学校の芸術鑑賞教室の継続により更なる豊かな情操の育成を図っていただきたい。

【施策6】本宮市の歴史と文化の継承と発信

《課題》

文化財、史跡保存・開拓は子どもから大人まで故郷「本宮」への郷土意識が生まれるものと思われる。より一層のPRをお願いしたい。

文化財は後世に伝え遺すという目的以外にも貴重な観光資源でもあり、地域振興に寄与している。今後も適切な管理・保存に努め、文化遺産を広く市内外にアピールし、またあわせて周辺環境を整備し本市発展の起爆剤にしていきたい。

基本目標Ⅳ 安全で安心して学べる教育環境の確保

【施策1】安全な教育施設の整備

《意見》

学校施設等耐震化推進事業では、学校施設等の耐震化事業が計画通り着実に進行しており評価できる。

《課題》

学校施設は、そこで生活する児童生徒のみならず、緊急の避難施設として一般市民にとっても重要な場所である。西日本豪雨や北海道地震などの大災害を見るに、ただ避難場所であればいいということでは済まされないことが浮き彫りになった。停電・断水・通信手段の遮断等、予期しない事態が起こっている。緊急避難場所としての学校施設はどうあるべきかを問い直すことが必要ではないか。

全国で教育施設の事故等（例、ブロック塀の倒壊による児童の死亡事故）があった場合、同じような事故が起きないように市内の教育施設も迅速に緊急点検を行い、また建物以外の施設や通学路のさらなる安全管理に努めていただきたい。

【施策2】安全・安心な教育環境の確保

《意見》

学校給食放射性物質検査事業では、すべての給食について食材ごと、一食丸ごとの検査を行い、10ベクレル未満という厳しい基準での検査は保護者の理解を得るのに十分である。さらに、市のホームページに結果を公表し保護者の給食に対する安心感につながっており、弁当持参の家庭がなくなったことがそれを物語っている。

《課題》

本市の学校給食放射性物質検査は、施設ごとの検査体制をとっているが、今後は検査体制の在り方について検討を加えていく必要がある。検討にあたっては、国・県や他市町村の動向も注視しながら、市放射線アドバイザーや保護者など様々な意見を聞いて議論していく必要があると思われる。

総括的意見

本報告書に示された38事業が、平成26年度からスタートした「本宮市教育振興基本計画」に則り適切に実施されていることを評価する。

その中でも、以下の2点は本市教育行政の特筆すべき事業として評価できる。

①充実した「子育て支援」事業

様々な事業形態を導入し市民のニーズに応じた多様なサービスを提供している。結果、社会問題化している待機児童の解消や幼い子どもを抱える保護者世帯への充実した支援など、大きな成果をあげていること。

②「本とともにだちになれるまち もとみや」をスローガンに掲げ、乳幼児から大人までを対象に、その発達段階をふまえながらきめ細やかな読書啓発に取り組んでいること。

『評価は新たな行動（改善）の始まりでもある。故に、報告書の「成果」や「課題・改善点」の中に、「昨年度～だったが本年度は～に改善できた、できなかった」といった文言が多く登場することを期待したい』

これはこれまで総括的意見として述べてきたことである。昨年度までこれに対応できた箇所は見当たらなかったが、本年度の報告書には、数ヶ所昨年度の反省や評価委員会からの指摘を踏まえての表現が見られたことは前進である。

少子化に伴い、児童生徒の減少によって生じた空き教室等の学校施設を有効に活用していく必要がある。

評価対象38事業において、随所に人材不足（保育士・特別支援員・SSW等）が報告書に出てくる。特に平成31年10月に幼保無償化が実施されれば、保育士の大幅な増員が考えられるので、人員の確保、それに伴う財源の確保を早めに準備願いたい。

IV 点検・評価の結果

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	1	人とかかわりを通した豊かな心の育成
事業名	1	保育所事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

保護者が就労等により昼間保育することができない就学前の児童を、市内の5か所の保育所で保育する。

[目的]

対象： 就労等により、昼間、児童を保育できない保護者
(何を・誰を)

意図： 就労等により昼間、児童を保育できない保護者に代わり、保育所で保育する。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	127,143
財源	
国庫支出金	105
県支出金	953
その他	63,644
一般財源	62,441

[事務事業の活動実績]

○入所児童数

(4月1日現在)

保育所名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
第1保育所		17人	18人	20人	23人	24人	102人
第2保育所	9人	18人	18人	20人	19人	18人	102人
第3保育所			11人	19人	24人	20人	74人
五百川幼保総合施設	8人	39人	51人	59人			157人
白沢保育所	5人	16人	18人	19人			58人
合計	22人	90人	116人	137人	66人	62人	493人

(3月1日現在)

保育所名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
第1保育所		18人	16人	20人	22人	23人	99人
第2保育所	12人	18人	16人	20人	19人	18人	103人
第3保育所			11人	20人	24人	23人	78人
五百川幼保総合施設	12人	37人	52人	59人			160人
白沢保育所	10人	16人	17人	17人			60人
合計	34人	89人	112人	136人	65人	64人	500人

○待機児童数

(4月1日基準日)

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
待機児童数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

(10月1日基準日)

年齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
待機児童数	14人	1人	4人	3人	0人	0人	22人

[事業の成果]

日中、仕事や介護、病気などを理由に子供の面倒を見る事が出来ない保護者(保育に欠ける児童)に対し、保育所で子供を保育することにより、子育て支援の一助となっている。

0歳から就学前までの乳幼児を受け入れ、発達の連続性を考慮した「幼保共通カリキュラム」を基に保育をしている。発達に必要な経験を積み重ねることで、人とかかわる楽しさや大切さに気づいたり、基本的生活習慣を身に付けることができている。

また、子どもたちを預かる保育所では、特有の多くのリスクを抱えており、万が一の事故やトラブルが生じた場合の危機管理体制等について研修を実施し、人材育成と保育の質の向上を図ることを目的とする職員研修会を計画的に実施した。

待機児童の発生状況について、国の公表基準日である4月1日現在では発生しなかったが、育児休業満了による入所申込みが増加し、同じく基準日である10月1日現在より待機児童が発生した。

[課題・改善点]

- ・昨年度に引き続き、保育士（臨時職員）の確保には苦慮している。保育士の養成機関への要請行動や、地域情報誌への掲載を行った。
- ・入所希望児童の受け入れは可能な限り行っているが、0歳児に関しては育児休業満了に伴う申し込みが増加傾向にあり、待機児童が発生している。また、今後の保育需要の伸びに対応するためにも、一時保育事業の更なる推進及び保育施設整備事業の進捗が重要となってくる。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

保育需要の増加に伴い、年度途中において待機児童が発生しており、引き続き保育士の確保に努める必要があり、様々な手法により募集活動を実施している。また、認可保育所への移行支援も継続し実施している。

[教育長又は教育部長評価]

保育ニーズの高まりにより、年度途中で待機児童が発生したが、その解消に向けた保育士の人材確保に鋭意努力し、待機児童を最小限に抑えることができたことを評価する。
今後とも待機児童解消のため、保育ニーズを充足する保育施設整備の推進と保育士確保対策の推進を期待する。

基本目標	1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	1	人とのかかわりを通した豊かな心の育成
事業名	2	幼稚園管理運営事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

教育内容の充実と教育環境の整備に努め、市内5か所で4、5歳児を対象とした幼稚園を運営する。

[目的] 対象： 公立の幼稚園児、公立幼稚園
(何を・誰を)

意図：
(事業のねらい、対象園児が安心して幼稚園に通い、学べる環境づくりを推進する。をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

事業費・財源内訳

決算額	千円
	25,630
財源	
県支出金	88
使用料及び手数料	11,653
その他	770
一般財源	13,119

○入園児童数 [平成30年3月1日現在]

幼稚園名	4歳児	5歳児	合計
五百川幼保総合施設	55人	62人	117人
岩根幼稚園	47人	45人	92人
糠沢幼稚園	13人	20人	33人
和田幼稚園	11人	14人	25人
白岩幼稚園	20人	24人	44人
合計	146人	165人	311人

○幼稚園保育料の減免措置

*市独自減免額 (29年度前期) (上段：園児数、下段：減免額) 単位：人、円

階層区分	減免対象園児			計
	第1子	第2子	第3子以降	
市民税非課税世帯及び 市民税所得割非課税世帯	6 90,000	0 0	0 0	6 90,000
上記区分以外の世帯	0 0	9 180,000	0 0	9 180,000
合計	6 90,000	9 180,000	0 0	15 270,000

*市独自減免額 (29年度後期) (上段：園児数、下段：減免額) 単位：人、円

階層区分	減免対象園児			計
	第1子	第2子	第3子以降	
市民税非課税世帯及び 市民税所得割非課税世帯	11 216,000	0 0	0 0	11 216,000
上記区分以外の世帯	0 0	8 224,000	0 0	8 224,000
合計	11 216,000	8 224,000	0 0	19 440,000

低所得者及び、保育所・幼稚園に同時に通所通園する場合の第2子以降がいる世帯の保護者の負担軽減を図るため、幼稚園保育料の減免を行った。

○すこやか子育て相談室

幼稚園・保育所に通わないで、自宅で子育てをしている保護者の悩みや困りごとについての相談に応じるため、「すこやか子育て相談室」を実施している。

また、通常の保育状況を参観し、子育ての参考にってもらう保育参観や、季節の行事へ参加を呼びかけ、幼稚園・保育所へ通わない世帯への支援を行った。

[事業の成果]

4、5歳児の就学前までの幼児を受け入れ、「幼保共通カリキュラム」に基づき、幼児の個性や発達段階を考慮しながら教育・保育を実践している。また、幼稚園生活を通して、生きる力の基礎となる心情・意欲・態度を育成し、スムーズな就学移行が図られた。

[課題・改善点]

- ・昨年度に引き続き、幼稚園教諭（臨時職員）の確保には苦慮している。幼稚園教諭の養成機関への要請行動や、地域情報誌への掲載を行った。
- ・市内5か所の幼稚園は、生活環境及び地域性の違いから、園児数に差が生じており、五百川幼保総合施設以外は、少子化等の影響もあり、入園者が年々減少傾向にある。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

市内5か所の幼稚園における園児数の差が生じているが、園児が安心して通い学べる環境づくりのため、本市独自の共通カリキュラムによる保育により、適切な保育ができている。

[教育長又は教育部長評価]

本市独自の幼保共通カリキュラムにより、幼稚園での生活を通した幼児教育が適切に行われている。また、子育て支援事業として、プレ幼稚園や育児相談の対応など、サービスの充実が図られている。

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	1	人とのかかわりを通した豊かな心の育成
事業名	3	幼稚園読書活動推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

幼稚園児に絵本の読み聞かせや貸し出しを行い、お話の世界にたくさん触れさせるなど、読書習慣の形成を支援する。

[目的] 対象： 市立幼稚園の園児
(何を・誰を)

意図： 読書に対する興味を深め読書習慣を身につけることにより、日常生活(事業のねらい、対象をどう変えるのか)に必要な知識や幅広い想像力を高めるとともに、豊かな感性を養う。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	124
財源	
一般財源	124

[事務事業の活動実績]

幼稚園児に絵本の読み聞かせを行うなど、授業で活用した。

幼稚園名	購入冊数
五百川幼保総合施設	21冊
岩根幼稚園	18冊
糠沢幼稚園	21冊
和田幼稚園	21冊
白岩幼稚園	20冊

[事業の成果]

読み聞かせや、定期的な貸し出しを行うことにより、読書に対する興味を深め読書習慣を身につけ、日常生活に必要な知識や幅広い想像力を高めるとともに、豊かな感性を養えた。また、保護者からは週末の絵本貸出により、子どもが本に興味を持ち、読み聞かせをする機会が増えるので大変良いと好評である。

[課題・改善点]

年次計画により、図書の更新を図っているが、司書と連携しながら、優良な図書の選定を行う。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

図書の購入は、毎年一定数を更新することができていること、また、学校司書の指導により読書指導が充実してきており、読書習慣が着実に身につけていると推測される。

[教育長又は教育部長評価]

本宮市子ども読書活動推進計画基本方針1「子どもが読書に親しむ機会の提供と充実」に基づき、読書環境の充実とともに、日常的な読み聞かせと週末の定期的貸し出しを継続することで、次世代を担う心豊かで創造性あふれる人材育成に寄与したと評価する。

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	1	人とのかかわりを通じた豊かな心の育成
事業名	4	ブックスタート事業
担当課		生涯学習センター（白沢公民館）

[事業概要]

10か月健診の際に、親子に対して読み聞かせを行い、読書活動啓蒙のために2冊の絵本とパンフレット（バッグ付き）のプレゼントを実施する。

[目的]

対象： 10か月児・保護者
(何を・誰を)

意図： 子どもが乳児期から絵本による語りかけを行い、子供の発達に合わせた本との関わりを持たせる。保護者に対しては、成長に合わせた読書の必要性の理解を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	814
財源	
一般財源	814

[事務事業の活動実績]

○ 10か月健診に合わせて、毎月1回実施した。

開催日	人数(人)	会場	
4月20日(木)	21	えぽか	
5月11日(木)	20		
6月22日(木)	22		
7月27日(木)	20		
8月10日(木)	25		
9月28日(木)	26		
10月26日(木)	21		
11月9日(木)	15		
12月21日(木)	10		
1月25日(木)	21		
2月22日(木)	19		
3月15日(木)	13		
合計	233		

[事業の成果]

当該事業を本宮市では合併当初から実施しており、全国的には1,741団体のうち1,029団体が実施している（2018年7月31日現在 NP0ブックスタート調べ）。事業の結果、親子の絆が深まり、喜びが感じられる子育てにつながるものと思われる。また、図書館の利用機会増加への効果も期待できる。

関連事業として、子育て初期の親子の絆の形成や情緒安定のため、3～4か月児健診でプレブックスタートを実施した。また、ブックスタート後のフォローアップとして、1歳6か月児健診及び3歳児健診で読み聞かせを行い、3歳児健診では絵本配布を実施した。

[課題・改善点]

若者の読書離れが進んでいると言われているが、ブックスタート事業は、読書のきっかけとなる事業であるため、引き続き本事業を展開する必要がある。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

本事業は、合併当時から実施している取り組みであり、子どもに読み聞かせをする良い機会となっている。また、親が子どもに対する読書の重要性を認識する機会となり、子どもの読書習慣につながることを期待できる。

[教育長又は教育部長評価]

乳児期の絵本の読み聞かせの重要性を保護者が理解し、親子で本に親しむ機会や習慣化の醸成に寄与する事業として定着している。

基本目標	1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	2	体を動かす遊びを通じた健やかな体の育成
事業名	1	保育所入所児健康づくり推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

体験的活動を通し、豊かな心と健全な体を育むための特色を生かした健康づくり活動を行う。

[目的] 対象： 公立・私立保育所幼児
(何を・誰を)

意図：
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 楽しく運動し健康増進を図る。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	400
財源	
県支出金	400

[事務事業の活動実績]

学校健康づくり推進事業補助金をPTA団体に一律50,000円を交付し、豊かな心と確かな体力づくり活動の支援を行った。

○活動内容

公立保育所	主な活動
第1保育所	・食育に関するお話会を開催し、絵本、紙芝居、歌等を通し身近な野菜等への興味関心を持つことが出来た。 ・親子体操教室を開催し、それぞれ発達段階に運動を行い、親子の触れ合いを図った。
第2保育所	・親子運動遊びを行い、基礎的運動遊びや、家庭にある物で出来る運動遊びを行う事が出来た。 ・食育講座を行い食べる事の大切さや、体の健康について興味を持つことが出来た。
第3保育所	・体操教室を実施し、楽しく体を動かし体力づくりを行う事が出来た。 ・水泳教室を実施し、水に慣れ活発に遊ぶことで体力づくりが出来た。
五百川幼保総合施設	・親子体操教室を開催し、親子一緒に体を動かす楽しさを体験し体力向上に対する意識付けを行う事が出来た。 ・親子体操教室を基に体操教室を実施し、全身を使う表現遊びを通じて体を動かす事への楽しさを養うことが出来た。
白沢保育所	・食育講座を行い清涼飲料水等の砂糖の多さや、様々な食品添加物が体に与える影響を学び、食への関心を深めることが出来た。 ・親子わらべ歌教室を開催し、親子で触れ合うわらべ歌を体験出来た。

私立保育所	主な活動
もとみや幼児の家	・園庭に野菜や花を植え、育て食べることにより、食への関心を深めることが出来た。 ・人形劇団を招聘し、親子で楽しみながら心の豊かさを育むことが出来た。
どんぐり保育園	・運動用に平均台を購入し、体を動かすことで健康づくりを図った。
光明保育園	・キッズヨガの講師を招聘し、音楽に合わせて楽しく運動を行う事が出来た。

[事業の成果]

放射線などの影響を心配する保護者の不安を考慮し、屋内活動の充実を目的としてきたが、放射線の心配も徐々に少なくなり、屋外の活動も実施しており、通常保育でも有効である遊びを通じた体力づくりを実施することができた。

[課題・改善点]

健康増進のための運動については、今後も指導者が、事業実施により習得した技術を生かし幼児の健康増進に寄与できるよう事業を展開していく。

<table border="1"> <tr> <td data-bbox="178 174 323 219">自己評価</td> </tr> <tr> <td data-bbox="178 219 323 297">A</td> </tr> </table>	自己評価	A	<p>[自己評価判断理由] 担当課長 保育所入所児の運動機会の充実を図るため実施している事業であり、各施設が工夫を凝らし事業を実施している。</p> <p>[教育長又は教育部長評価] 本事業により、各施設で工夫を凝らした様々な運動や食育事業が行われ、幼児の健やかな成長と健康づくりに寄与していることを評価する。</p>
自己評価			
A			

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	2	体を動かす遊びを通じた健やかな体の育成
事業名	2	幼稚園児健康づくり推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

体験的活動を通し、豊かな心と健全な身体を育むための特色を生かした健康づくり活動を支援する。

[目的]

対象： 公立・私立幼稚園児
(何を・誰を)

意図：
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 楽しく運動し健康づくりを行う。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	300
財源	
県支出金	300

[事務事業の活動実績]

学校健康づくり推進事業補助金を幼稚園PTA団体に一律50,000円を交付し、豊かな心と確かな体力づくり活動の支援を行った。

○活動内容

公立幼稚園名	主な活動内容
五百川幼保総合施設	・親子体操教室を開催し、体を動かす楽しさと体力の向上を図る事が出来た。 ・親子体操教室の経験を基に、園児のみでの体操教室を実施し進んで体を動かす意欲を養う事が出来た。
岩根幼稚園	・食育講座を開催し、身近な野菜への興味関心をもち、楽しみながら食事への大切さを学ぶことが出来た。 ・親子体操教室を開催し、体を使って親子のふれあいを図ることで、体を動かす事への関心を深めることが出来た。
糠沢幼稚園	・歯磨き教室を開催し、自ら歯磨きに取り組む姿を家庭に知らせ、歯磨きの大切さを啓蒙することが出来た。 ・親子体操教室を開催し、ルールのある遊びを行い友達と関わりながら運動する楽しさを体験できた。
和田幼稚園	・水泳教室を開催し、泳ぐことへの関心を高め、意欲的に取り組む事への動機づけを図る事が出来た。 ・わらべ歌教室を開催した事で、楽しんで身体を動かす機会が増えた。
白岩幼稚園	・わらべ歌教室を開催し、保護者と一緒に歌ったり等で楽しんで身体を動かすことができた。 ・体操教室を実施し、身体を動かすことの楽しさを味わう事ができた。

私立幼稚園名	主な活動内容
本宮幼稚園	・健康増進のため、歯磨き指導を受けたことにより、歯科衛生の重要さと正しい歯磨きを学ぶことができた。 ・健康増進のため内科検診を実施した。

[事業の成果]

放射線などの影響を心配する保護者の不安を考慮し、屋内活動の充実を目的としてきたが、放射線の心配も徐々に少なくなり、屋外の活動も実施しており、通常保育でも有効である遊びを通じた体力づくりを実施することができた。

また、発達の段階に合わせた体を使った運動から歯の重要性の啓発等、健康づくりができた。

[課題・改善点]

健康増進のための運動については、今後も指導者が事業実施により習得した技術を生かし、園児の健康増進に寄与できるよう事業を展開していく。

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">自己評価</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; font-size: 24px;">A</div>	<p>[自己評価判断理由] 担当課長</p> <p>幼稚園児の運動機会の充実を図るため実施している事業であり、各施設が工夫を凝らし事業を実施している。</p>
	<p>[教育長又は教育部長評価]</p> <p>本事業により、各施設で工夫を凝らした様々な運動や食育事業が行われ、幼児の健やかな成長と健康づくりに寄与していることを評価する。</p>

基本目標	1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	3	一人一人の育ちにあった教育の推進
事業名	1	障がい児保育事業（保育所）
担当課		幼保学校課

[事業概要]

発達障がい児等を受け入れ、児童の心身の発達に合わせた保育援助を行う。

[目的] 対象： 就労等により家庭で十分保育することができない、集団保育可能な就
(何を・誰を) 学前の障がい児の保護者
 意図： 障がい児担当の保育士を配置し、障がいの程度に見合った保育を行う
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) ことで、障がい児の心身の発達を促し、保護者の育児不安解消や負担軽減を図る。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	15,488
財源	その他
	40
一般財源	15,448

[事務事業の活動実績]

担当保育士を配置し、障がいの程度に見合った保育を行い、保護者との連携を図り、障がい児保育を行った。

○障がい児保育児童（実人数）

施設名	第1保育所	第2保育所	第3保育所	五百川幼保	白沢保育所	合計
人数	4	2	1	3	0	10

[事業の成果]

障がい児を支援するため障がいの程度に見合った保育を行っている。また、保護者との連携を深めながら、育児不安の解消や負担軽減に努めている。

[課題・改善点]

対象年齢が低年齢であり、入所の段階で障がい児と判断するのが非常に難しいのが現状である。また、心身の発達も途上であるため、児童の状況等について保護者の理解を得るのが難しく苦慮しているため、より一層の保護者との連携が必要である。
 さらには、保健担当部署、福祉担当部署及びSSWとの連携も密にしながら、入所児童への適切なサポート体制を図ると共に、就学時においては適切な支援と保護者の不安解消に引き続き努めていく必要がある。
 担当保育士の配置については、依然として保育士不足が喫緊の課題であり、適切な人員配置ができていないのが現状である。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

障がい児を支援する担当保育士（支援員）を可能な限りの人数を各施設に配置し、支援員と保育士の連携により、発達段階に応じた個々の支援を行うことができた。また、スムーズな就学へとつなぐため、関係機関や保護者との連絡調整ができた。

[教育長又は教育部長評価]

健全児と障がい児を同時に受け入れ、インクルーシブ教育の理念に沿った集団保育を行うことができた。また、就学への移行もスムーズに行われたと評価する。

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	4	ニーズに応じた地域子育て支援の充実
事業名	1	一時保育事業（保育所）
担当課		幼保学校課

[事業概要]

保護者の勤務形態、傷病、出産等により一時的に家庭での保育が困難となる児童について一時的に保育所で預かる。

[目的]

対象： 一時的に家庭保育が困難となる就学前児童の保護者
(何を・誰を)
意図： 保護者の勤務形態、傷病、出産等により一時的に家庭での保育が困難となる児童を、一時的に保育所で預かることにより、保護者の子育てを支援する。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	3,347
財源	
国庫支出金	581
県支出金	581
その他	1,700
一般財源	485

[事務事業の活動実績]

5か所の市立保育所のうち1施設（五百川幼保総合施設 地域子育て支援センター）において、一時保育を実施した。

○一時保育利用児童（延人数）

月	五百川幼保総合施設 (地域子育て支援センター)
4月	119
5月	109
6月	126
7月	125
8月	106
9月	132
10月	156
11月	179
12月	170
1月	160
2月	170
3月	180
合計	1,732

[事業の成果]

仕事、休養及び疾病などの理由により、家庭においての保育が一時的に困難となった乳児又は幼児を対象に一時保育事業を実施している。受入施設は、五百川幼保総合施設 子育て支援センター内の1施設に集約している。

なお、一時保育事業は、多様なニーズに対応した保育を実施し保護者の負担軽減に繋がっている。また、集団生活の経験が少ない幼児が集団生活に参加することにより、人とのかかわる楽しさなど発達に必要な経験を得るための機会を提供することができた。

[課題・改善点]

一時保育利用者数の推移は前年度と比較し、約500名の増加傾向にある。要因としては、保育所需要の増加により待機児童の発生が一時保育の利用増加につながっていると考えられる。今後さらに保護者ニーズを注視しながら、待機児童対応の一つとしても、一時保育事業の継続を図っていく。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

保育需要のニーズの増大に伴い、様々な保護者の理由による受け入れ先として十分な体制をとることができている。一時保育については、五百川幼保総合施設にある子育て支援センターへ集約し実施し、緊急の利用者の受入も対応可能となっており、十分な成果があげられたと考えられる。

[教育長又は教育部長評価]

女性の社会進出や核家族化の進展、また待機児童となった家庭での本事業に対するニーズが高くなっている中、受け入れ環境を整え、前年度よりも多くの利用実績となっていることは、子育て支援の充実に寄与できたものと評価する。

基本目標	I	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実												
基本施策	4	ニーズに応じた地域子育て支援の充実												
事業名	2	延長保育事業（保育所）												
担当課		幼保学校課												
<p>[事業概要]</p> <p>保護者の就労形態の多様化に伴い、保育時間の延長を希望する保護者に対して延長保育を実施する。</p> <p>[目的] 対象： 家庭で十分保育することができない就学前の児童の保護者 <small>(何を・誰を)</small></p> <p>意図： 保育士を配置して延長保育を実施することで、保護者が安心して就労 <small>(事業のねらい、対象をどう変えるのか)</small> できるようにする。</p> <p>[事務事業の活動実績]</p> <p>5か所の市立保育所において、午後7時まで延長保育を実施した。</p> <p>○延長保育延べ登録児童数 817人</p>		<table border="1"> <tr> <td colspan="2">事業費・財源内訳</td> </tr> <tr> <td>決算額</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>28,089</td> </tr> <tr> <td>財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>2,112</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>25,977</td> </tr> </table>	事業費・財源内訳		決算額	千円		28,089	財源		その他	2,112	一般財源	25,977
事業費・財源内訳														
決算額	千円													
	28,089													
財源														
その他	2,112													
一般財源	25,977													
<p>[事業の成果]</p> <p>保護者の就労形態の多様化に対応するため、保護者の勤務状況に応じて、午前7時からの早朝保育及び午後6時から7時までの延長保育を実施し、保護者が安心して子育てができる環境を提供し、ニーズに対応した子育て支援が図られている。</p> <p>[課題・改善点]</p> <p>特段の課題・改善点は無いが、延長保育事業のさらなる推進を図りながら、きめ細かい子育て支援サービスの充実に努めていく。</p>														
<table border="1"> <tr> <td>自己評価</td> </tr> <tr> <td>A</td> </tr> </table>	自己評価	A	<p>[自己評価判断理由] 担当課長</p> <p>保育需要のニーズの増大に伴い、様々な保護者の理由による受け入れ先として十分な体制をとることができている。</p> <p>[教育長又は教育部長評価]</p> <p>就労環境の多様化及び女性の社会参画が進む中、長時間保育のニーズが年々高まりを見せており、延長保育により幼児と保護者の安心に寄与できたと評価する。</p>											
自己評価														
A														

基本目標	1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	4	ニーズに応じた地域子育て支援の充実
事業名	3	預かり保育事業（幼稚園）
担当課		幼保学校課

[事業概要]

幼稚園の教育課程に係る教育時間終了後に在園児を保育する。

[目的]

対象： 在園児及び保護者
(何を・誰を)

意図： 通常保育より延長した保育により更なる幼児教育の推進及び、家庭で
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) の育児が困難な世帯に対し子育ての支援を行う。

[事務事業の活動実績]

○実施状況

幼稚園名	登録園児数	利用延べ園児数	保育時間
五百川幼保総合施設	67 人	13,249 人	【基本利用】 ・通常保育後～午後6時 (土曜日・長期休業期間 は午前7時～午後6時) 【延長利用】 ・午後6時～午後7時
岩根幼稚園	51 人	9,907 人	
糠沢幼稚園	16 人	2,964 人	
和田幼稚園	10 人	2,209 人	
白岩幼稚園	21 人	4,144 人	
合計	165 人	32,473 人	

事業費・財源内訳

決算額	千円
	31,414
財源	
国庫支出金	5,507
県支出金	5,660
使用料及び手数料	12,360
その他	1,413
一般財源	6,474

[事業の成果]

幼稚園の教育時間（午後1時）を越え、保育に欠ける要件を有する園児を預かっている。
保育所と同様の子育て支援を実施することにより、保護者ニーズへの対応と就労支援が図られている。

[課題・改善点]

依然として保育士不足が課題であり、預かり保育担当の保育士（臨時職員）の確保には苦慮している状況である。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

保育ニーズの増大に伴い、様々な保護者の理由による受け入れ先として十分な体制をとることができている。預かり保育については、保育士の確保に苦慮しているが、今年度は利用者の要望に対応することができた。

[教育長又は教育部長評価]

保育所の延長保育と同様に、保護者ニーズに対応した子育て環境の充実に寄与できたと評価する。預かり保育担当の職員確保については、保育所も同じ課題を抱えているが、引き続き人材確保に努めていく必要がある。

基本目標	1	子どもの主体性を育てる幼児教育の充実
基本施策	4	ニーズに応じた地域子育て支援の充実
事業名	4	地域子育て支援拠点事業（センター型）
担当課		幼保学校課

[事業概要]

子育て世帯がつどう場を設け、子育て世帯の交流、子育て等に関する相談、援助、地域の子育て関連情報の提供などを行う。

[目的] 対象： 施設入所、入園していない子育て世帯
(何を・誰を)

意図：
(事業のねらい、対象 子育て世帯の悩みや不安を解消する。
をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

子育て支援センター月別利用人数

(人)

月	保護者数	幼児数	合計
4月	61	70	131
5月	117	121	238
6月	103	125	228
7月	61	78	139
8月	58	79	137
9月	71	88	159
10月	106	136	242
11月	75	98	173
12月	34	41	75
1月	64	85	149
2月	58	76	134
3月	37	46	83
合計	845	1,043	1,888

事業費・財源内訳

決算額	千円
	3,452
財源	
国庫支出金	1,274
県支出金	1,274
その他	88
一般財源	816

[事業の成果]

就園前の乳幼児を対象に「プレ幼稚園」や「子育て相談」を実施し、保護者の子育てに対する悩みや不安の解消が図られている。

また、平日のセンター解放日や各イベントは、多くの子育て世代の交流機会となっており、家庭保育を行っている保護者の負担軽減及びリフレッシュの場となっており好評を得ている。さらに、保育経験の豊富な保育士が担当していることから、質の高い保育及び子育て支援が提供されている。

[課題・改善点]

利用者が年々増加している状況にあり、子育て支援センターの事業継続が必要である。

自己評価

S

[自己評価判断理由] 担当課長

家庭保育を行っている保護者に、子育ての情報発信や悩み等を相談する場を提供し、子育て支援や不安を解消することができた。利用者も年々増加（前年比126%）しており、センター利用の認識も広がっている。

[教育長又は教育部長評価]

子育て支援センター事業が子育て世代に浸透し、年々利用者が増加しており、気軽に利用できる施設として保護者の不安解消に寄与したものと評価する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実										
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成										
事業名	1	キャリア教育推進事業										
担当課		幼保学校課										
<p>[事業概要]</p> <p>児童、生徒が自らの将来像を考え、勤労観を養う等の取組みを行うため、講演等を行う。全国へそのまち・こども交流事業に小学生を派遣した。</p>		<table border="1"> <tr> <th colspan="2">事業費・財源内訳</th> </tr> <tr> <td>決算額</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3,346</td> </tr> <tr> <td>財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td>県支出金</td> <td>3,346</td> </tr> </table>	事業費・財源内訳		決算額	千円		3,346	財源		県支出金	3,346
事業費・財源内訳												
決算額	千円											
	3,346											
財源												
県支出金	3,346											
<p>[目的]</p> <p>対象： 市内小中学校児童生徒 (何を・誰を)</p> <p>意図： 児童生徒が将来への夢や職業を思い描き、その実現に向けて努力することができるようにする。 (事業のねらい、対象をどう変えるのか)</p>												
<p>[事務事業の活動実績]</p> <p>(1) 保育所・幼稚園・小学校・中学校 ・基本的な生活習慣の育成として「あいさつ運動」の定着化を図った。</p> <p>(2) 小学校5年生・中学校2年生 ・日本サッカー協会事業によるスポーツ選手等を招聘し、夢や挫折、目標を学ぶ教室を開催した。 日 時：平成29年10月31日～平成30年2月26日 延べ21クラス</p> <p>(3) 全国へそのまち・こども交流事業 ・全国へそのまち協議会設立20周年記念事業（全国へそのまち・こども交流事業）に、小学生を派遣し異なる風土や文化を学び、児童の自己育成を図った。 開催日時：平成29年7月29日～31日 会場地：沖縄県宜野座村 参加児童：小学6年生7名（各校1名）</p>												
<p>[事業の成果]</p> <p>サッカー協会の「夢の教室」では、招聘した講師それぞれの、今に至るまでの体験談等が傾聴でき、児童生徒の将来への夢や職業を思い描くための一助とすることができた。 また、全国へそのまち協議会主催のこども交流事業では、加盟自治体から参加した多くの児童と有意義な交流ができた。</p>												
<p>[課題・改善点]</p> <p>「夢の教室」は、児童生徒等にとってより有意義で魅力ある内容にするため事業を継続していきたい。 子ども交流事業については、今年度より始めた事業であるが、今後も小学生を派遣する事業を継続していきたい。</p>												
<table border="1"> <tr> <th>自己評価</th> </tr> <tr> <td>S</td> </tr> </table>	自己評価	S	<p>[自己評価判断理由] 担当課長 トップアスリートによる「夢の教室」の授業を開催し、将来の夢や職業への希望と、あきらめない強い意志をもつこと、挫折を乗り越えることの大切さなどを伝えることができた。また、長年の課題であった小学生の国内派遣事業が実施できた。</p>									
	自己評価											
S												
<p>[教育長又は教育部長評価]</p> <p>あいさつ運動の定着化により、児童生徒の基本的な生活習慣が醸成されている。また、夢の教室は、夢を持つことの大切さや夢に向かって努力することの大切さなど、児童生徒の心に響く授業が行われ、好評を得ていることを評価する。</p>												

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切に、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	2	体験活動促進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

○スキー体験教室の実施

[目的] 対象： 児童
(何を・誰を)

意図： 屋外運動の機会を創出し、放射線を気にすることで生じるストレスや運動不足を解消する。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	11,442
財源	
県支出金	11,442

[事務事業の活動実績]

・屋外運動機会が減る冬場に、スキー体験教室を開催し、震災により屋外運動の機会が減っている児童にその機会を提供した。

○スキー体験教室

実施期間：平成30年1月～2月
対象：小学3年生～6年生
実施場所：あだたら高原スキー場

○元気キッズサポーター派遣事業（福島県事業）

事業の目的及び内容

東京電力第一原子力発電所の事故に伴う屋外活動制限や避難生活の影響により、多様な動きを体得していない子ども達について、保育所、幼稚園保育や放課後児童クラブ等での遊びの提供、小学校体育の授業等で学級担任と連携したT・T授業を行うことにより体力向上を図る。

事業実施期間：平成29年8月1日～平成30年3月31日

指導者 1名

派遣実績

校種	派遣回数	指導人数	指導内容
小学校	127回	22,506人	体育授業指導補助等
幼稚園	10回	275人	ダンス運動等
保育所	9回	197人	ダンス運動等
放課後児童クラブ	25回	956人	なわとび運動指導等
合計	171回	23,934人	

[事業の成果]

- ・スキー体験教室実施の機会を設け、各学校の実施計画により実施し、冬場の屋外運動機会を創出し運動不足解消や、ストレス解消の一助とすることができた。
- ・福島県の元気キッズサポーター派遣事業を活用し、低年齢児からの運動能力習得を図った。

[課題・改善点]

スキー体験教室については、今後も事業継続のための財源確保に努めたい。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

県の補助事業として、屋外での運動が制限される冬期間にスキー体験教室や、保育所や幼稚園、小学校等への指導員の派遣し、幼児・児童の運動機会の増加につながった。

[教育長又は教育部長評価]

スキー体験教室を継続的に実施することにより、冬季間における児童の体力向上と心身のリフレッシュに寄与した。また、元気キッズサポーターの派遣により、特に就学前から小学校低学年の運動能力の向上に成果が見られた。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	3	小学校読書活動推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

学校図書館における学習活動を充実するため、図書を購入する。

[目的]

対象： 小学校児童
(何を・誰を)

意図： 読書に対する興味を深め読書習慣を身につけることにより、日常生活に
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 必要な知識や幅広い想像力を高めるとともに、豊かな感性を養う。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	1,367
財源	
その他	140
一般財源	1,227

[事務事業の活動実績]

● 学校図書整備状況

学校名	図書購入等冊数	廃棄冊数	図書館保有冊数
本宮小	291	30	8,078
本宮まゆみ小	154	3	9,589
五百川小	160	0	5,711
岩根小	298	100	6,846
糠沢小	70	1	5,225
和田小	201	21	4,111
白岩小	280	65	5,754

(平成30年3月31日現在)

● 学校図書貸出状況

学校名	貸出冊数
本宮小	5,688
本宮まゆみ小	6,199
五百川小	6,781
岩根小	5,584
糠沢小	2,537
和田小	2,752
白岩小	3,507

[事業の成果]

図書館ネットワークシステムの活用によりスムーズな貸出業務が行われた。
しらすわ夢図書館事業のドリーム文庫の貸出や、出張おはなし会、ブックトークを併用し、本に接し親しむ機会を設け利用拡大を図った。
また、学校図書館司書が2名体制で、市立図書館と連携し、貸出、照会等、図書館業務の充実を図った。

[課題・改善点]

図書の充足率は約9割超となった。今後も新刊等の購入を継続し充足率の向上を図っていく。また、図書の選定は、本に接する機会を増やすため学校図書館司書と連携し学校の現状に応じた十分な検討を継続して行う必要がある。本の貸出しについても学校図書館司書と連携し、更なる図書館図書利用促進を図っていく必要がある。

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">自己評価</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 5px auto;">B</div>	<p>〔自己評価判断理由〕 担当課長</p> <p>毎年計画的に図書を購入し、児童へ読書活動に寄与できた。また、読書習慣と豊かな感性を養うため、図書館司書による読み聞かせや本の紹介をしており、本に興味を持たせることができ、貸し出し件数も増加傾向にあるが、充足率が10割に達していないため前年度に引き続き「B」評価とした。</p>
	<p>〔教育長又は教育部長評価〕</p> <p>学校図書館司書による読書環境の整備が進み、各学校における図書貸出冊数が年々増加しているが、図書充足率を満たしていないため、B評価はやむを得ない。</p>

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	4	中学校読書活動推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

学校図書館における学習活動を充実するため、図書を購入する。
学校図書館司書の活用により、効果的な学校図書館運営を図る。

[目的] 対象： 中学校生徒
(何を・誰を)

意図： 読書に対する興味を深め読書習慣を身につけることにより、日常生活
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) に必要な知識や幅広い想像力を高めるとともに、豊かな感性を養う。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	5,419
財源	その他
	71
	一般財源
	5,348

[事務事業の活動実績]

●学校図書整備状況

学校名	図書購入等冊数	廃棄冊数	図書館保有冊数
本宮第一中学校	293	973	10,029
本宮第二中学校	200	0	7,400
白沢中学校	485	0	5,420

(平成30年3月31日現在)

●学校図書貸出状況

学校名	貸出冊数
本宮第一中学校	838
本宮第二中学校	1,852
白沢中学校	577

[事業の成果]

図書館ネットワークシステムの活用によりスムーズな貸出業務が行われた。
しらすわ夢図書館事業の、ドリーム文庫の貸出を併用し本に接し親しむ機会を設け利用拡大を図った。
また、学校図書館司書が2名体制で、市立図書館と連携し、貸出、照会等、図書館業務の充実を図った。

[課題・改善点]

図書の充足率は約8割となった。今後も新刊等の購入を継続し充足率の向上を図っていく。また、図書の選定は本に接する機会を増やすため、学校図書館司書と連携し学校の現状に応じた十分な検討を継続して行う必要がある。また、本の貸出しについても学校図書館司書と連携し、更なる図書館図書利用促進を図っていく必要がある。

自己評価

B

[自己評価判断理由] 担当課長

毎年計画的に図書を購入し、生徒へ読書活動に寄与できた。また、読書習慣と豊かな感性を養うため、図書館司書による読書指導や本の紹介をしており、本に興味を持たせることができ、貸し出し件数も増加傾向にあるが、充足率が10割に達していないため「B」評価とした。

[教育長又は教育部長評価]

学校図書館司書による読書環境の整備が進み、各学校における図書貸出冊数が年々増加しているが、図書充足率を満たしていないため、B評価はやむを得ない。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	5	小学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

安達地方音楽コンクール・県小学校音楽祭等への参加や、各種文集コンクール等へ作品の出品を行う。

[目的]

対象： 小学校児童
(何を・誰を)

意図： 文化活動を通して情感あふれる表現や鑑賞の基礎となる力を身につける。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	1,536
財源	
一般財源	1,536

[事務事業の活動実績]

安達地方音楽コンクール等への参加に係る諸経費や負担金の支援を行った。

[主な参加実績]

●音楽コンクール

①安達地区小中学校音楽祭

【第1部合唱】(8月23日：二本松市民会館)

- ・本宮小学校 : 金賞
- ・本宮まゆみ小学校 : 金賞
- ・五百川小学校 : 銀賞
- ・岩根小学校 : 銀賞

②安達地区小中学校音楽祭

【第2部合奏】(9月14日：二本松市民会館)

- ・和田小学校 : 金賞
- ・白岩小学校 : 銀賞

●福島県算数ジュニアオリンピック

- ・本宮小学校 6年生 銀メダル

●各種出展

①FCT児童画展

- ・和田小学校 6年生 福島市教育委員会教育長賞

②福島県小学校児童画展

- ・和田小学校 3年 特賞

[事業の成果]

各学校の積極的な参加により優秀な成績を収めることができた。

[課題・改善点]

各学校の特色を活かすことのできる支援体制を継続する。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

保護者の負担軽減を図り、文化芸術等の各種大会に積極的に参加できるよう経費等の支援を要求どおり実施することができた。

[教育長又は教育部長評価]

各小学校とも積極的に各種大会に参加し活躍できたことは、児童の文化意識の高揚や心の成長につながるものであり評価に値する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	6	中学校文化芸術分野各種大会・交流行事参加事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

安達地方音楽コンクール・県音楽コンクール等への参加や、中学校英語弁論大会への参加、各種文集コンクール等への出品を行う。

[目的]

対象： 中学校生徒
(何を・誰を)

意図： 文化活動を通して情感あふれる表現や鑑賞の基礎となる力を身につける。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	1,254
財源	
一般財源	1,254

[事務事業の活動実績]

安達地方音楽コンクールや文集コンクールへの参加に係る諸経費や負担金の支援を行った。

[主な参加実績]

●音楽コンクール等

①福島県吹奏楽コンクール県北支部大会（7月15・16日：福島市音楽堂）

- ・本宮第一中学校：金賞
- ・本宮第二中学校：銅賞
- ・白沢中学校：金賞

②福島県吹奏楽コンクール県大会（7/29・8/5：県内各会場）

- ・本宮第一中学校：銀賞
- ・白沢中学校：銅賞

③安達地区小中学校音楽祭

【第1部合唱】（8月23日：二本松市民会館）

- ・本宮第二中学校：奨励賞
- ・白沢中学校：奨励賞

【第2部合奏】（9月14日：二本松市民会館）

- ・本宮第一中学校：金賞
- ・本宮第二中学校：銀賞
- ・白沢中学校：銀賞

④福島県アンサンブルコンテスト県北支部大会（12月9・10日：福島市音楽堂）

- ・本宮第一中学校：銀賞（2団体）

●英語弁論大会

①安達支部英語弁論大会（8月29日：二本松市安達文化ホール）

- ・本宮第一中学校（4名）：暗唱の部・金賞1名、銀賞1名 創作の部・金賞1名、銀賞1名
S k i t の部・銀賞

- ・本宮第二中学校（1名）：暗唱の部・金賞1名

- ・白沢中学校（4名）：暗唱の部・金賞1名 創作の部・金賞1名 S k i t の部・3位

●各種出展・コンテスト

①中学生の「税についての作文」コンクール

- ・本宮第一中学校 3年 東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞
- ・白沢中学校 2年 福島県納税貯蓄組合連合会会長賞

②全国中学校人権作文コンテスト福島県大会

- ・白沢中学校 3年 優秀賞

[事業の成果]

各学校の積極的な参加により優秀な成績を収めることができた。

[課題・改善点]

各学校の特色を活かすことのできる支援体制を継続する。

自己評価	<p>[自己評価判断理由] 担当課長 保護者の負担軽減を図り、文化芸術等の各種大会に積極的に参加できるよう経費等の支援を要求どおり実施することができた。</p>
A	<p>[教育長又は教育部長評価] 各中学校が各種大会に積極的に参加し、それぞれに優秀な成績を収め活躍することができたことを評価する。</p>

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成
事業名	7	スクールソーシャルワーカー配置事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

中学校学区に2名のスクールソーシャルワーカー（SSW）を配置し、不登校やいじめ、暴力行為など子どもの深刻な問題行動や虐待、育児放棄及び経済的な困窮家庭などの保護者や子どもに対し、専門的な見地から学校と関係機関の仲介、個々の状況に応じた相談、助言を行う。

[目的]

対象： 小中学校児童生徒、保護者、教職員
(何を・誰を)

意図： 児童生徒や保護者には、スクールソーシャルワーカー（SSW）により悩みや不安、ストレスなどを和らげ、心の安定を図る。また、教員に関してはSSWの専門的なコンサルテーションにより問題解決の糸口を共に探る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	8,804
財源	
国庫支出金	8,544
その他	22
一般財源	238

[事務事業の活動実績]

教育委員会に専門知識を持つSSWを配置し、市内各幼稚園・保育所・小学校・中学校を巡回し、不登校・いじめなどを含めた児童生徒等が抱える課題解決に資した。

●相談業務

諸問題								計
養育環境	長期欠席	いじめ	暴力行為	貧困	障がい	震災関係	その他1	
191	30	11	15	42	152	13	242	696

現状				計
課題解決	経過良好	支援途中	その他2	
32	157	164	74	427

校種別				計
就学前	小学校	中学校	その他3	
42	297	88	0	427

<項目説明>

○諸問題（複数該当）

養育環境…児童虐待、家族の情緒不安定、家庭内不和、DV、多子世帯、ハイリスク家庭など含む。

長期欠席…30日以上欠席者のほか、登校しぶり、別室登校など含む。

暴力行為…自傷他傷を含む。

貧困 …経済的困難さが諸問題にも影響を及ぼすもの。

障がい …知的・身体・情緒：発達・学習などの障害及びその疑いを含む。

震災関係…避難家庭及び震災の影響により諸問題に影響を及ぼしたことが明確なもの。

その他1 …いじめ以外の友人関係、教職員との関係、非行などを含む。

○現状

課題解決…一定程度安定して学校等での生活を送ることができ、主訴であった課題の解決が図れたもの。

経過良好…支援は継続しているものの、家庭、学校、関係機関等の尽力により、課題解決に向けた取り組みが順調に行われているもの。

支援途中…支援を継続し、家庭、学校、関係機関等との協働をさらに図っていく必要があるもの。

その他2 …卒業や転居により、支援が中断せざるを得ないもの。

○校種別

就学前 …市内外の公立私立幼稚園・保育所・療育機関に通う幼児。

その他3 …施設入所及び卒業後の生徒。

●にじいろひろば活動状況

長期休暇中においても継続的に支援が必要と感じられる子どもたちに、居場所を設け、切れ目のない支援を行い、新学期をスムーズに迎えられるよう「にじいろひろば」を開設する。

[夏休み]

参加者 52名 (実人数)

プログラム内容 全6回

押し花で遊ぼう・クラフト工房 (工作) ・米粉でクッキング・ラジオを作ろう
動物や畑に親しもう・MOTOMIYAオリンピック・にじいろカフェ (保護者対象)

アンケート結果 次年度参加意向

児童生徒 55% (参加したい) 40% (来年になったら考えたい)
保護者 100% (「参加したい」 + 「都合がつけば参加したい」)

[冬休み]

参加者 42名 (実人数)

プログラム内容 全3回

Kふぁーむ (冬の農場体験) ・米粉であったか (中華まん作り)
あけましてキンボール・にじいろカフェ (保護者対象)

アンケート結果 次年度参加意向

児童生徒 63% (参加したい) 29% (来年になったら考えたい)
保護者 94% (「参加したい」 + 「都合がつけば参加したい」)

[事業の成果]

勤務形態である市教育委員会配置・巡回型を継続し、専門性や役割 (社会福祉士 / 従来対応・震災対応) を活かした活動の充実を図った。特に、直接子ども・家庭・教員を支援するだけでなく、生徒指導協議会及び校内ケース会議への参加や校内支援体制の確立、長期休暇中の居場所作り (にじいろ広場) などの実践を行った。

教職員、児童生徒と保護者と関わる中で、信頼関係がより強固になり、課題・問題を関係者間で共通認識し、関係機関と連携を図りながら、多角的な支援につなげることができた。

早期発見・早期療育及び啓発・予防の視点から、就学相談を適切に行った。これにより、就学後に起こりうるであろう問題に未然に対応し、また、実際の支援についてもより円滑に進められるようにした。

[課題・改善点]

相談案件の複雑化や、関係者の異動 (教職員) に伴う相談支援体制の確立を、継続し図っていく必要がある。

支援を必要とする児童生徒等の個々の案件は多種多様であり、潜在化、及び長期化することも危惧されるため、今後も支援方法等について検討する機会をより多く設け、関係各機関と共に連携できる体制を継続していきたい。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

市単独で S S W の通年雇用は、県内でも先進的な取り組みである。児童生徒や保護者の抱えるさまざまな問題の解決に向けて個々に応じた支援しており、相談件数も増加しており課題解決の一助となっている。また、長期休業中の居場所づくり事業「にじいろ広場」も好評である。

[教育長又は教育部長評価]

児童・生徒が抱える問題は多岐にわたり年々増加しており、保護者や教職員の関わりだけでは解決できない場合も多い。個々のケースに応じて、傾聴し、寄り添い、最適な関係機関へつなぐ S S W の業務成果は評価に値する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実												
基本施策	1	人権を大切にし、お互いを認め合う心など共に生きる力の育成												
事業名	8	学校復帰支援事業												
担当課		幼保学校課												
<p>[事業概要]</p> <p>さまざまな理由で登校できない児童生徒に対して、学習指導や自立活動を支援することにより、生活や学習に取り組む態度や意欲を高めることを目的とする。支援方法として「適応指導教室」を開催する。また、Q-Uテストを年2回実施し、学校生活意欲や学級満足度から諸問題の早期発見・諸問題解決を図る。</p>		<table border="1"> <tr> <th colspan="2">事業費・財源内訳</th> </tr> <tr> <td>決算額</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3,905</td> </tr> <tr> <th colspan="2">財源</th> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>3,905</td> </tr> </table>	事業費・財源内訳		決算額	千円		3,905	財源		一般財源			3,905
事業費・財源内訳														
決算額	千円													
	3,905													
財源														
一般財源														
	3,905													
<p>[目的] 対象： 登校ができない児童生徒 (何を・誰を)</p> <p>意図： 心に悩みを持ち登校が困難な児童生徒について、適応指導やカウンセリング、学力補充などの支援を行い、個に応じたの学校復帰を図る。 (事業のねらい、対象をどう変えるのか)</p>														
<p>[事務事業の活動実績]</p> <p>プログラム内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月中旬から3月中旬まで、月、水、金の週3日、午前10時～午後2時の開催。 ・主に午前は自主学習、午後は諸活動として美術、スポーツや調理実習などを実施。 ・教室での活動のほかに課外活動にも力を入れ、自然、郷土学習にも積極的に取り組んだ。 ・火、木はできる限り登校に繋がれるよう、学校や家庭と共に働きかけを行った。 <p>○対象児童生徒数 7名</p> <p>○開催回数 110日</p> <p>○復帰人数 ・卒業(進学)4名 ・学校復帰(部分登校含む)2名</p> <p>○その他支援状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にじいろ通信(※たより)を月1回発行し、家庭並びに学校に配付することで、活動内容をより具体的に紹介することができた。 ・各生徒の担任や校長などが、教室を自由に訪れることで、生徒の所属感を維持した。 ・月毎に各生徒の出欠状況、学習や活動状況を各学校へ報告した。 ・定期的に指導主事及びスクールソーシャルワーカー(SSW)と打合せを行い、情報交換を行った。 ・SSWが児童生徒に応じて、家庭訪問や保護者等との面談を行うことで、保護者との連携を深めた。 <p>Q-Uテストの実施(年2回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校の全学級を対象に実施し、学級内の子どもたちの学校生活意欲や学級満足度を把握し、諸問題の未然防止・早期発見・諸問題解決を図る。検査結果について、各学校内で改善についての方策、対応を検討し、学級経営に活かしている。 														
<p>[事業の成果]</p> <p>学校への訪問や保護者との教育相談などを通して、通級生に対するよりよい関わり方や、周囲の理解を深めていくことができた。</p> <p>指導員2名体制で運営し、それぞれの得意分野を活かした幅を持たせた関わり・支援を実施し、個々のニーズに合わせた学習支援・体験活動・精神的ケアを行ない、児童生徒の意識向上を図ることができた。</p> <p>対象の中学3年生全員を卒業後進学につなげることができた。</p>														
<p>[課題・改善点]</p> <p>本事業は、適応教室への参加を通して、長期欠席者が学校復帰できるようになることを目標にしている。しかし、児童生徒によって学校復帰への道のりは様々で、より個に応じた支援が必要になる。また、まだ「適応教室」につなげていない長期欠席児童生徒に対しても、学校や家庭と連携を図りながら、学習支援や自立支援、生活支援を促していく方法を継続して検討していく必要がある。</p>														
<table border="1"> <tr> <td>自己評価</td> </tr> <tr> <td>A</td> </tr> </table>	自己評価	A	<p>[自己評価判断理由] 担当課長</p> <p>登校が困難な児童生徒に対する復帰支援として、卒業や高校進学への支援ができていく。</p>											
	自己評価													
A														
<p>[教育長又は教育部長評価]</p> <p>長期欠席児童生徒が抱える心の悩みはそれぞれにあるが、将来への希望にもつながる復帰プログラムとしての本事業は、その実績からも評価に値する。</p>														

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	2	思考力・判断力・表現力と課題解決能力の育成
事業名	1	学力向上対策事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

診断的学力検査、学年別知能検査、学習適応性検査を実施し、各校の特色に応じた学力向上プランを実践する。チャレンジ学習奨励補助事業として、漢字、算数・数学、英語検定受験補助を行い学力向上対策を図る。

[目的]

対象： 小中学校児童生徒
(何を・誰を)

意図： 学力検査及び知能検査等の調査及び、漢字、算数・数学、英語検定料の補助を実施し、本市児童、生徒の基礎学力の向上を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	5,411
財源	
一般財源	5,411

[事務事業の活動実績]

調査を実施し、調査結果を分析し、個々の学習状況に応じて学力向上に寄与した。

[主な活動]

・本宮市学力向上委員会を2度（5月、2月）計画し、その間は中学校区毎に随時研修会や授業研究会等を開き、授業力向上に努めた。

また、5回にわたって外部講師を招聘し、教職員を対象とした授業力向上に向けた研修会を開催し学力向上を図るための有効な手だてなどについて研究・協議を行った。年度末には、各種検査結果を受けて明らかとなった成果と課題から、次年度に取り組むべき方向性について各学校へ提案することが出来た。

・漢字検定、算数・数学検定、英語検定受験希望者に、一人1,000円を上限に受験料補助を行い児童生徒の学力向上対策の一助とした。

○チャレンジ学習奨励補助事業利用実績

児童生徒数	漢字検定	算数・数学検定	英語検定	合計	合格率			
	補助利用者数	補助利用者数	補助利用者数		漢字検定	算数・数学検定	英語検定	
小学校	1,694	934	273	-	1,207	83%	87%	-
中学校	935	205	30	175	410	48%	76%	79%
合計	2,629	1,139	303	175	1,617			

[事業の成果]

平成29年度全国標準学力検査NRTの偏差値平均では、小・中学校とも全国平均を上回った。

チャレンジ学習奨励補助事業については、利用者数は、昨年度より増え、全体の6割を超える児童生徒が利用し、児童生徒の学力向上の一助となった。

教員の日々の授業力向上が学力向上に不可欠であることから、全教職員を対象に、年5回研修を実施し教職員の授業力と資質の向上を図った。

[課題・改善点]

市第1次総合計画（2009年～2018年）後期目標偏差値は小学校54.0、中学校51.0である。今回、全体の平均値は目標値と同程度であるが、アンダーアーチャーにおいて小学校は約6%、中学校は約14%となっており、学力の底上げを図る継続的な取組が必要である。

チャレンジ学習奨励補助事業については、受験率60%から、さらに受験者数が増加するよう導きたい。

<div data-bbox="177 203 320 232" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自己評価</div> <div data-bbox="177 232 320 322" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">B</div>	<p data-bbox="355 143 1410 172">[自己評価判断理由] 担当課長</p> <p data-bbox="389 172 1372 232">学力向上の目標偏差値は達成しているが、チャレンジ学習は受験者数が前年度より増加しているものの、目標値（80%）にもう少しの状況にあるためB評価とした。</p> <hr/> <p data-bbox="355 293 1410 322">[教育長又は教育部長評価]</p> <p data-bbox="389 322 1372 378">教職員を対象とした授業力向上の研修会開催や、各学校での学力向上のための取り組みが全体的な学力向上につながり、総合計画における目標値を達成できた。</p> <p data-bbox="389 378 1372 461">しかし、チャレンジ学習として奨励している漢字検定や英語検定、算数・数学検定への児童生徒参加率が全体の6割程度であったことを踏まえると、B評価はやむを得ない。</p>
--	---

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	3	心身の健全な成長を目指す教育の推進
事業名	1	小学校児童健康づくり推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

体験的活動や豊かな心と確かな学力を育む学力の創造など、学校の特色を生かした健康づくり活動を支援する。

[目的]

対象： 小学校児童
(何を・誰を)

意図： 正しい生活習慣を身につけ、体力の向上を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	1,400
財源	
県支出金	1,400

[事務事業の活動実績]

学校健康づくり推進事業補助金を小学校PTA団体に一律200,000円を交付し、豊かな心と確かな体力づくり活動の支援を行った。

学校名	主な事業内容
本宮小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科健康教室を開催し、一生自分の歯で食事を楽しみ健康維持が出来る事を学んだ。 ・ スポーツテスト結果を基に、スポーツ用品を購入し、体力・運動能力の向上を図った。
本宮まゆみ小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯磨き教室を開催し、むし歯予防のための歯磨きの方法を分かり易く学ぶことが出来た。 ・ マラソン・なわとび活動を推進し、楽しみながら意欲的に運動することを学んだ。
五百川小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツテストを実施し、児童の体力や運動能力の実態を把握し、体育事業の見直しを図る事が出来た。 ・ 歯磨き教室を実施し、丈夫な歯をつくることへの意識を高めることが出来た。
岩根小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体力づくりのため、校内マラソン、校内なわとび記録会を行う事で、体力向上につなげることが出来た。 ・ 歯科教室を通して、歯磨きタイムを実施したことで歯科衛生に関する興味関心を深めることが出来た。
糠沢小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科衛生教材と保健衛生の補充を行い、学校の衛生環境の改善を図る事が出来た。 ・ 体力テストを実施し、児童が自己の体力や運動能力について深い関心を持つことが出来た。
和田小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食育講座を開催し、食の重要性和、健康への関わりについて学ぶことが出来た。 ・ 歯磨教室を開催し、歯の染め出しを体験する事で、歯の健康への関心を深めることが出来た。
白岩小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加湿器を購入し、インフルエンザ等の感染抑止を図った。 ・ 体力づくりのため、朝マラソン実施に関わる物品や、バドミントンセット等を購入し、児童が楽しみながら運動に取り組む事が出来た。

[事業の成果]

健康に関する各種教室の開催、また、全学校で実施したスポーツテストの結果を踏まえた基礎体力作りに関する教材の購入等、学校の特色を活かした健康づくり活動を支援できた。

[課題・改善点]

男子女子とも小学6年生の成績が良く、南達陸上競技大会や水泳大会へ向けての取組みの成果が現れている。一方、小学1～5年生の体力合計点が軒並み下がっているため、各校ごとの改善策を講じていく必要がある。

自己評価
B

[自己評価判断理由] 担当課長

学校の実態に即した健康教育事業の開催や体力増進のための教材を購入している。体力テストの結果は、全体的には下がっている傾向にあるので、今後の推移を注視する必要がある。

[教育長又は教育部長評価]

本事業の継続実施により、児童の体力向上や健康づくりに成果が見られるが、体力テストの結果はいまだ上昇傾向にないため、各学校の更なる取り組みが必要である。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	3	心身の健全な成長を目指す教育の推進
事業名	2	中学校生徒健康づくり推進事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

体験的活動や豊かな心と確かな学力を育む学力の創造など、学校の特色を生かした健康づくり活動を支援する。

[目的]

対象： 中学校生徒
(何を・誰を)

意図：
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 正しい生活習慣を身につけ、体力の向上を図る。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	600
財源	
県支出金	600

[事務事業の活動実績]

学校健康づくり推進事業補助金を中学校PTA団体に一律200,000円を交付し、豊かな心と確かな体力づくり活動の支援を行った。

学校名	主な事業内容
本宮第一中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・体力測定値をデータ化し、生徒毎のデータを把握し、体力向上と健康増進を進めることが出来た。 ・思春期教室、薬物乱用防止教室、学校保健委員会を開催し、教員と生徒で心身の健康について正しい知識を学ぶことが出来た。
本宮第二中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・体育用品の補充を行い、体力向上と食育指導に活用した。 ・スポーツテストを実施し、結果を運動能力向上の指導に生かすことが出来た。
白沢中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・性に関する講演会を各学年毎に実施し、健全な心の育成を図る事が出来た。 ・体力づくりや生涯スポーツ奨励の目的で、体育用品を購入し授業に活用する事ができた。

[事業の成果]

健康啓蒙に関する教室の開催、体力づくりに関する教材の購入を行い学校の特色を活かした健康づくり活動を支援できた。

[課題・改善点]

体力テストの全体の結果を見ると、昨年度と比べ改善がみられる結果であり、部活動指導の成果が現れている。特に中学3年生男子は、全国と比較しても高いレベルにある。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

学校の実態に即した事業、健康教育事業の開催や体力増進のための教材を購入している。体力テストの結果では、全体的には昨年を上回る結果となり、事業効果が表れている。

[教育長又は教育部長評価]

毎年度、継続的に取り組んできた結果、生徒の心身の健康に資する基礎は整ってきている。各校とも工夫を凝らした事業展開がされており評価する。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	4	子ども一人一人の障がいの状態や発達段階に応じた指導の充実
事業名	1	特別支援教育支援員配置事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

通常の学級に在籍しながらも特別な教育的支援を必要とするLD、ADHD等の障がいをもった児童生徒に対し、一人ひとりのニーズに適切に対応するため支援員を配置する。

[目的]

対象： 市内小中学校に在籍する障がいのある児童生徒
(何を・誰を)

意図： 多動傾向等にある児童生徒や集団生活に馴染めない児童等の特別な教育的支援を必要とする児童生徒が、在籍校における生活、学習等様々な教育活動へ参加できるよう適切な対応を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	23,016
財源	その他
	54
一般財源	22,962

[事務事業の活動実績]

発達障がい、情緒障がい及び肢体不自由児童生徒への生活支援のため、一部を除く小中学校に特別支援教育支援員を14名配置した。

配置	本宮小	本宮まゆみ小	五百川小	岩根小	糠沢小	和田小	白岩小	本宮一中	本宮二中
	2	2	1	2	1	1	2	1	2

[事業の成果]

障害等のある児童生徒に対して、適切に「特別支援教育支援員」を配置して、発達や実情を踏まえた、個々にあった支援を行なうことができた。

[課題・改善点]

インクルーシブ教育を推進するにあたり、障がい等のある子どもが、十分に教育を受けられるための合理的な配慮及びその基礎となる環境整備をしていく必要がある。

限られた人数で、複雑で多種に及ぶ案件に対応するため、人材配置については、増員を含め今後も十分な検討が必要である。

自己評価

B

[自己評価判断理由] 担当課長

支援が必要な障がい等のある児童生徒に対して、発達や実態を踏まえた個々にあった支援を行い、対象児童生徒は通常の教育活動へ参加をすることができた。対象児童生徒は年々増加する傾向にあり、引き続き支援員の増員を進めていきたい。

[教育長又は教育部長評価]

市単独事業として特別支援教育支援員14名を配置し、個々の特性に応じた支援を行ってきたが、対象児童生徒は増加傾向にあり、各学校のニーズに応じた支援員の配置は十分とは言えない状況である。

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	5	震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進
事業名	1	小中学校学校教育事業等助成事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

各学校の特色を生かした学習活動を実施する小中学校PTA団体に対し、助成金を交付する。

[目的] 対象： 小中学校児童生徒、小中学校PTA団体
(何を・誰を)

意図： 地域の特性を生かした体験的活動や、豊かな心と確かな学力を育む学習を展開し、児童生徒の健全で豊かな能力の向上を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	6,226
財源	
一般財源	6,226

[事務事業の活動実績]

各小中学校PTA団体に対し、小中学校教育事業等補助金を交付した。

学校名	補助金額(円)	主な事業内容
本宮小学校	401,000	・芸術(演劇)鑑賞教室を開催し、本物の芸術に触れる事で豊かな人間性を育む事が出来た。 ・体験学習、校外活動の補助により自然体験等を実施し、団体行動を通じて公衆道徳について学ぶことが出来た。
本宮まゆみ小学校	346,000	・花壇用の肥料などを購入し、校舎内外の環境美化を通じて、豊かな人間性を育む事が出来た。 ・各教科で使用する授業用消耗品を整備し授業の充実を図り、一人一人の学習意欲を高めることが出来た。
五百川小学校	309,000	・校外学習を実施し社会科学習の充実を図る事が出来た。 ・鼓笛隊編成にあたり、外部講師を招聘し実技指導を受ける事で、鼓笛活動への意欲と自信を高めることが出来た。
岩根小学校	444,000	・見学学習等の体験学習を行い、児童の知識や理解、思考力を高めることが出来た。 ・各教科で使用する授業用消耗品の充実を図り、児童が授業に興味関心を持って取り組む事が出来た。
糠沢小学校	223,000	・体験学習、校外活動の経費補助を行い、多様な社会体験をすることが出来た。 ・芸術鑑賞教室(演劇)を通じて、児童が等しく芸術について造詣を深めることが出来た。
和田小学校	156,000	・芸術鑑賞教室(演劇)を通じて、深い関心を持ち豊かな人間性を育む事ができた。 ・体験学習参加の補助により、充実した活動が出来た。
白岩小学校	230,000	・学力向上対策として、国語・算数科の教材を購入し授業の活性化を図る事が出来た。 ・体験学習で社会科見学への補助を行い、充実した活動が出来た。
本宮第一中学校	1,648,000	・部活動用具等を補充し、スポーツ及び文化的な活動への取り組みへの充実を図った。 ・キャリア教育事業では、大学教授を講師に講演会を行い、生徒の将来に向けて方向性を見出す一助となった。 ・芸術鑑賞教室事業では、演劇鑑賞を実施し本物の芸術に触れる機会を得た。
本宮第二中学校	1,330,000	・部活動に係る用具等の購入や修繕を行い、充実を図った。 ・芸術鑑賞教室事業では、古典落語を鑑賞し豊かな人間性を育むことが出来た。

白沢中学校	1,138,866	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動用具の補充等を行い、各部活動の充実をはかり、心と体を鍛える生徒の達成が出来た。 ・キャリア教育事業では、考古学博士を講師に講演会を開催し、生徒の将来の進路決定や学校生活に関して一助を得た。 ・芸術鑑賞教室事業では、音楽鑑賞を行いプロの技術に直接触れる喜びを体験することが出来た。 		
<p>[事業の成果] 学校や地域の特性を生かした体験活動や講演会、芸術鑑賞教室など、豊かな心と確かな学力を育む学習活動の展開により、児童生徒の健全で豊かな能力の向上を図ることができた。 各学校、特色を生かした事業に取り組んでおり、児童生徒に対する指導も充実したものとなっている。</p> <p>[課題・改善点] PTA会員にも広く事業の目的及び成果を報告し、学校とPTAが情報を共有しながら事業を継続していきたい。本事業を継続することで、各学校の教育事業を推進し、教育目標実現のための重要な事業として位置付けられる。</p>				
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">自己評価</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> </tr> </table>	自己評価	A	<p>[自己評価判断理由] 担当課長 各校それぞれの特色を生かした事業が展開できるよう補助金を交付した結果、教育目標実現のため、文化・スポーツ振興などあらゆる分野の教育事業を実施しており、児童生徒に対する学習支援と学習指導が充実したものとなった。</p> <p>[教育長又は教育部長評価] 本事業は、各学校のニーズに即した多様な活用が可能であり、教育活動の充実が図られていることを評価する。</p>	
自己評価				
A				

基本目標	Ⅱ	子どものよさや可能性を広げる学校教育の充実
基本施策	5	震災の教訓を踏まえた地域とつながる特色ある教育の推進
事業名	2	通園通学支援事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

通園通学については、幼稚園は保護者の送迎、小学校は集団登校、中学校は徒歩又は自転車の基本とするが、通園通学に支援が必要な児童等に対する安全確保と負担の軽減を図る。

[目的] 対象： 通園通学の片道が概ね2キロメートル以上の園児・児童・生徒
(何を・誰を)

意図： 自転車通学者へのヘルメットの支給と通園通学バスの運行
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

●ヘルメット支給状況

学校名	支給数
本宮第二中学校	114個
白沢中学校	74個

●通園通学バス距離別利用者数

区分	距離				合計
	2km未満	2km以上4km未満	4km以上6km未満	6km以上	
小学校	9人	110人	19人	0人	138人
中学校	0人	57人	34人	15人	106人
合計	9人	167人	53人	15人	244人

事業費・財源内訳

決算額	千円
	39,200
財源	
使用料及び手数料	4,254
その他	6
一般財源	34,940

[事業の成果]

通学に支援が必要な児童生徒に対する安全確保と負担の軽減を図った。

[課題・改善点]

委託業者で運行計画に基づき適正に運行している。今後も運行体制やコース等を再検討し、通園通学の安全を確保しながらいかにコストを抑え本事業を継続していくかが課題である。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

地域の見守りの目が届かない白沢地区における支援の必要な児童生徒に対し、継続して通園通学バスを運行した。安全が確保され、保護者の安心と負担軽減が図られた。また、自転車通学生徒に対しヘルメットの支給を行い、安全な通学の一助とした。

[教育長又は教育部長評価]

目的に沿った事業が展開され、児童生徒の安全確保が図られたと評価する。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	1	共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進
事業名	1	成人教育事業
担当課		中央公民館

[事業概要]

生涯学習のきっかけづくりや住民相互のコミュニケーションの場を提供し、趣味の多様化に伴い新しい内容の講座を設け、ニーズに応える。

[目的]

対象： 成人（市民、市内在勤者）
（何を・誰を）

意図： 生涯学習の興味を深めるとともに、豊かな人間性の醸成と資質、能力の向上を図る。
（事業のねらい、対象をどう変えるのか）

事業費・財源内訳

決算額	千円
	325
財源	
その他	155
一般財源	170

[事務事業の活動実績]

成人教育事業として、中央公民館並びに白沢公民館において各種成人講座を開催し、生涯学習の興味を深めるとともに、豊かな人間性の醸成と資質・能力の向上を図ることができた。

（中央公民館）

講座名	開設期間	回数	受講生	子ども	延べ数
もとみや歴史散歩	6月	1回	15人	0人	15人
ゆっくりストレッチ	7月	4回	18人	0人	58人
昔話を語ろう	6月～7月	4回	3人	0人	9人
きめこみパッチワーク	7月	2回	5人	0人	10人
アクアビクス教室	5月～6月	4回	20人	0人	62人
楽しい英会話	11月～2月	8回	23人	0人	116人
ロープワーク教室	12月	1回	10人	0人	10人
アクアビクス教室	11月	4回	21人	0人	71人
日本酒を学ぶ	11月～12月	3回	10人	0人	28人
絵本よみきかせセラピー	1月～2月	4回	13人	0人	47人
合計			138人	0人	426人

（白沢公民館）

講座名	開設期間	回数	受講生	子ども	延べ数
文化財講座	6月～11月	8回	38人	0人	103人
パソコン講座「ワード応用編」	6月～7月	5回	6人	0人	28人
蘭の花を咲かせましょう	6月～3月	4回	28人	0人	91人
タブレット・スマホ入門	5月	1回	16人	0人	16人
夏のポンチョ	7月	2回	7人	0人	14人
パソコン講座「エクセル入門編」	1月	5回	5人	0人	24人
大人のための国語教室	2月	3回	11人	0人	31人
魚のおろし方	11月	2回	15人	0人	30人
絵本に出てくるお菓子づくり	12月	1回	12人	6人	18人
手作りのお香袋	11月	1回	11人	0人	11人
あじろおりのマフラー	1月～2月	2回	10人	0人	20人
合計			121人	6人	386人

[事業の成果]

成人教育事業として、各種の講座を開催した中で、講座参加者により継続して活動を行う繋がりができ
るなど、生涯学習を通して地域住民のコミュニケーションの場を提供することができた。

また、市民のニーズを把握するためのアンケートや他自治体を参考にするなど情報の収集に努め多様な
講座を提供することができた。

[課題・改善点]

市民が生涯学習の興味を深めるとともに、豊かな人間性の醸成と資質・能力の向上を図ることができた
が、募集定数に満たない講座も見られたが、募集方法や広報活動に留意しながら、ニーズの掘り起こしを
行ったことにより、受講生数の増加が見られた。引き続き、趣味の多様化に応じた興味関心のある新たな
講座の開催に努めていきたい。

[自己評価判断理由] 担当課長

成人教育事業として、各種の講座を開催し、生涯学習を通して地域住民のコミュニ
ケーションの場を提供することができた。また、少ない経費で大きな成果を上げること
ができ、市民に対する成人講座開催の認識も定着しており、新たな受講生の掘り出しが
できた。

[教育長又は教育部長評価]

市民ニーズが多様化している中、アンケート等により開催講座を企画し、受講者数が
増加した。今後も開催講座の工夫に努め、成人教育事業のさらなる充実に努めてほし
い。

自己評価

A

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	1	共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進
事業名	2	女性教育事業
担当課		中央公民館

[事業概要]

成人女性を対象とし、女性にとって身近な問題に関する内容の講座を開催する。

[目的]

対象： 成人女性
(何を・誰を)

意図： 教養・趣味・健康に関する内容を学習することにより、豊かな人間性の醸成と資質、能力の向上を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

女性教育事業として、「レディースセミナー」の学級を開催し、健康・趣味・教養など幅広く学習し、楽しく仲間づくりをすることができた。

学級名	開設期間	回数	受講生	延べ数
レディースセミナー	6月～12月	6回	18人	95人

事業費・財源内訳

決算額	千円
	78
財源	
一般財源	78

[事業の成果]

講座内容について、受講生同士の話し合いで内容を決めたことにより、受講生へのアンケートでは満足度90%、合わせて受講生のほとんどの方が次年度の受講を希望している。このことから、講座の内容としては、当初の目的である幅広い体験を通して、受講生それぞれが自分を見つめ学習する「自分磨き」の時間を持つことができた判断できる。

[課題・改善点]

成人女性が生涯学習の興味を深めるとともに、豊かな人間性の醸成と資質の向上を図るため、引き続き、趣味の多様化に対応しながら、成人女性の身近な問題に関する内容や興味関心のある講座の開催に努めていきたい。
また、継続参加者が多く、新規受講生が少ないことから、周知方法について工夫したい。

自己評価
B

[自己評価判断理由] 担当課長

女性教育事業として、働く女性のニーズに応えた学習会が開催され、学習会を通して学級生の交流を図ると共に、講座生同士の仲間づくりにも大きく寄与した。
一方、参加者数の微減が続いていることから、より多くの受講生の確保に努めたい。

[教育長又は教育部長評価]

受講生の満足度は高いものの、受講生の固定化が見られることから、講座内容の見直しと充実により、広く成人女性の興味関心を持つような事業展開を工夫されたい。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	1	共に学び、一人一人が輝く生涯学習の推進
事業名	3	高齢者教育事業
担当課		中央公民館

[事業概要]

各地区高齢者を対象とした長寿大学等を開設し、高齢者の身近な問題や教養・趣味等に関する内容についての講座を開催する。

[目的] 対象： 60歳以上の市民
(何を・誰を)

意図： 教養・趣味・健康に関する内容の学習をとおして社会参加と仲間づくりができ、生きがいを持ちながら生き生きと心豊かに過ごせるようにする。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	138
財源	
一般財源	138

[事務事業の活動実績]

各地区高齢者を対象とした長寿大学等を開設し、高齢者の身近な問題や教養・趣味等に関する内容についての講座を開催した。

学級名	開設期間	回数	受講生	延べ数
本宮ふれあい塾	6月～12月	8回	17人	108人
新生大学	6月～12月	8回	19人	103人
青田地区長寿大学	6月～11月	5回	37人	99人
荒井地区長寿大学	6月～11月	6回	42人	210人
仁井田地区長寿大学	6月～11月	8回	29人	133人
高木地区長寿大学	6月～11月	8回	39人	205人
岩根地区長寿大学	6月～11月	8回	24人	173人

[事業の成果]

受講生へのアンケートの結果については例年と同じく、受講の満足度は高く、講座内容に対する評価も全員が「役にたった」であるため評価は高いものと判断される。講座内容として、健康講話や料理講習、軽運動、手芸、園芸などを行ったが、次年度へのアンケートを実施した結果を踏まえて、次年度の計画を策定していることによる成果と考えられる。

[課題・改善点]

高齢者が生きがいを持ち生き生きと心豊かに過ごし、社会参加と仲間づくりを図るため、引き続き、高齢化社会に対応した高齢者の身近な問題に関する内容や興味関心のある講座の開催に努めていきたい。受講生の多くが福寿会に加入している方々であることから、それ以外の方の参加を促す方を検討する必要がある。

また、高齢者の年齢に幅が出てきていることから、講座の内容に配慮する必要がある。

[自己評価判断理由] 担当課長

高齢者教育事業として、各地区の高齢者の要望に応えた学習会が開催され、学習会を通して仲間づくり、生きがいづくりなど、楽しく心豊かな時間を提供することができた。また、講座生数は安定しており、講座の認識も定着している。

[教育長又は教育部長評価]

アンケートの実施により高齢者のニーズに即した講座が開催されている。本事業は、高齢者の生きがいづくりや社会参加の促進などにも寄与しており、今後も工夫を凝らしながら継続すべき事業である。

自己評価

A

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	2	健康で活力ある人生につながる生涯スポーツの推進
事業名	1	市民競技力向上対策事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

体育協会との協議に基づき競技力向上を目指す種目について専門家を招き、指導を行う。渡邊拓馬バスケットボール教室の開催。

[目的] 対象： 市民（主に小中学校児童生徒）
(何を・誰を)

意図：
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 市民個々の競技能力を高めるとともに、各種競技選手の育成を図る。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	324
財源	
一般財源	324

[事務事業の活動実績]

講師・団体等	経歴	対象者	回数	人数
渡邊拓馬	日本バスケットジュニア・日本代表	小・中学生	1回	100人

[事業の成果]

多種にわたるスポーツ競技の中で、市民により多くの一流アスリートの指導を提供することを目的に、バスケットボール教室を開催した。

チームや選手に共通する基本的な動きを重視した指導を行う中で、普段の練習では行わないようなトレーニングなども取り入れ、レベルの向上やスポーツ事業の推進に貢献した。

[課題・改善点]

一流選手の招聘を行うため、参加人数・回数の制約が課題であったが、チーム競技を選択したことから参加人数についてはクリアできた。

本年度は、学校のクラブやスポーツ少年団、また、その指導者にも指導方法などを学習する機会の提供ができたが、開催が1回だけであり、市民ニーズに応じた多くのスポーツ競技への対応及び継続的な事業実施については改善できなかった。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

全日本クラスの指導者であり選手権の選手でもあった、専門家による指導により、市内のバスケット競技選手・指導者の競技力・指導力の向上がはかられた。

[教育長又は教育部長評価]

限られた予算の中で、競技種目の選定には苦慮しているが、参加者からは好評を得ており、市民の競技力向上に資することができた。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	2	健康で活力ある人生につながる生涯スポーツの推進
事業名	2	スポーツ推進委員活動事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

市民に対しスポーツの普及と健康づくりの大切さの啓蒙を行うとともに、各種スポーツ大会運営の協力を行う。(定数20人以内)

[目的] 対象： 市民、スポーツ推進委員
(何を・誰を)

意図： 地域の身近な指導者として市民に対し指導助言を行い、個々の技術向上と体力向上の支援を行うとともに、地域のスポーツ・レクリエーションの普及、振興を図っている。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	1,087
財源	
一般財源	1,087

[事務事業の活動実績]

○活動実績

	事業名	活動人数【延べ】
1	ロードレース大会	12名
2	市民体力測定	11名
3	もとみや駅伝大会	7名
4	福島県スポーツ推進研究大会	8名
6	福島県縦断駅伝大会	7名
7	各種会議等(7回)	52名
	合計	97名

[事業の成果]

市や市教育委員会が主催する大会、自主開催事業(市民体力測定会)など6事業(各種会議等を除く)に、延べ45名の委員に大会運営に協力いただいた。スポーツ振興についてスポーツ推進委員で検討し、自主事業の実施などを検討した。

[課題・改善点]

スポーツ推進委員20名を委嘱し各種事業の運営協力をいただいているが、委員それぞれ職業を持ち仕事に折り合いをつけながらの参加であり、活動・参加状況に偏り傾向が見受けられる点については改善できなかった。

委員には、勤務の関係で全ての事業への参加は困難な方もいると思われるが、これからも協力をお願いし、地域のスポーツ・レクリエーションの普及、振興を図りたい。

また、スポーツ振興のための研修会や自主事業実施についての検討するなどの改善は図られた。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

市民体力測定はスポーツ推進委員自らが中心となり実施する事ができ、地域のスポーツの普及活動に大きく貢献することができた。また、スポーツ推進委員が自主的に事業を計画するなど、意識の向上が図られた。

[教育長又は教育部長評価]

スポーツ推進委員の活動が、主催事業の開催や各種大会への協力など、年々充実してきている。今後も、地域におけるスポーツ・レクリエーションの振興など、活動範囲の広がりに期待する。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	3	「本と友だちになれるまち もとみや」を目指した活動の推進
事業名	1	しらさわ夢図書館運営事業
担当課		生涯学習センター（白沢公民館）

[事業概要]

住民の読書活動・情報活動の拠点として、読書活動の振興・活性化を図るために、図書館の適切な運営を行い、図書館資料を充実させ、利用者に必要な資料・情報の提供を行う。また「本宮市子ども読書活動推進計画」を実施するための具体的事業の企画・実施と広報活動を行う。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	12,084
財源	
その他	274
一般財源	11,810

[目的] 対象： 市民
(何を・誰を)

意図： 市民が、読書の楽しみや有益性を認知し、生活のあらゆる場面で図書館の資料が身近に活用できるような環境をつくる。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

[事務事業の活動実績]

- 市内幼稚園・保育所・小学校のおはなし会の開催にボランティアの協力を得ることで、読書推進活動のより一層の充実を図ることができた。
- 図書館資料購入 2, 182件

【出張おはなし会開催状況】

開催日	開催場所	対象者数(人)
5月19日	もとみや幼児の家	35
5月24日	岩根小学校	130
6月15日	五百川小学校	100
6月20日	白岩小学校	53
6月21日	糠沢小学校	49
6月29日	本宮小学校	57
7月11日	糠沢小学校	45
7月18日	和田幼稚園	28
9月20日	第3保育所	81
9月21日	白岩幼稚園	50
9月27日	岩根小学校	134
9月28日	白沢保育所	25
10月 3日	和田小学校	33
10月10日	和田幼稚園	32
10月26日	もとみや幼児の家	50
11月 1日	第1保育所	115
11月14日	本宮小学校	76
11月17日	第3保育所	20
12月 5日	岩根幼稚園	98
12月15日	五百川幼保総合施設	129
1月16日	本宮まゆみ小学校	50
1月19日	白沢保育所	75
1月25日	白岩幼稚園	48
2月21日	五百川幼保総合施設	130
合 計		1,643

【有効登録者数】

施設名	有効登録者数(人)
図書館	9,298
図書室	5,032
移動図書館	3,246
合 計	17,576

【利用状況】

	利用人数（人）	貸出数（件）	返却数（件）
4月	1,392	3,041	2,878
5月	1,600	11,016	2,935
6月	1,947	4,027	3,290
7月	2,816	6,411	6,291
8月	2,621	7,851	7,397
9月	1,702	8,246	8,220
10月	1,614	4,022	3,625
11月	1,944	9,798	8,502
12月	1,445	7,426	8,738
1月	1,428	4,956	4,416
2月	1,639	3,900	3,950
3月	1,871	3,832	11,833
合計	22,019	74,526	72,075

【蔵書冊数】 68,946冊

【事業の成果】

利用人数は前年度より減少したものの、貸出数及び返却数は前年度より増加した。
平成24年度に図書館・学校図書館ネットワーク機器の整備が完了し、図書館と学校の相互貸出や検索が可能となり、利便性が向上している。また、図書館で養成している読書活動ボランティアとの連携により利用サービスが向上した。

【課題・改善点】

学校図書館運営・整備に対して、図書館のボランティアの依頼が増加したため、より多くの新しいボランティアを養成するための講習会を開催しており、継続して育成を図る必要がある。
学校図書館業務については、平成28年度から市内小中学校全校を学校司書2名が巡回する体制となり、児童・生徒の読書活動の推進に寄与した。

自己評価

A

【自己評価判断理由】 担当課長

学校図書館システムの稼働により、公共図書館から学校図書館への支援体制が整備され、児童・生徒の読書活動が活性化している。また、市内小中学校全校を学校司書2名が巡回し、児童生徒への本貸出の援助などを積極的に行ったことにより、登録者数及び図書の貸出数が前年度より増加した。

【教育長又は教育部長評価】

学校図書司書の配置により、公立図書館と学校図書館のネットワーク環境が機能的に運用され、学校における読書活動が充実したものとなっている。図書ボランティア団体との連携も図られ、就学前からの読書習慣形成にも大きく寄与している。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	4	学校と地域を結ぶ社会教育活動の充実
事業名	1	青少年健全育成推進大会事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

地区青少年育成推進協議会や関係機関等からの協力を得て、各小中学校代表による「少年の主張」の発表と記念講演等を開催する。

[目的] 対象： 青少年、青少年を取り巻く全ての人
(何を・誰を)

意図： 青少年問題のもつ重要性を踏まえ、広く市民や青少年と関わりのある人の理解と協力を得て、次代を担う青少年の健全な育成を図る。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	58
財源	
一般財源	58

[事務事業の活動実績]

○ 第10回本宮市青少年健全育成推進大会

(1) 開催日時：平成29年11月26日(日)

(2) 会場：サンライズもとみや

(3) 内容：○「少年の主張」作品発表(14名)

発表者	小学校の部	本宮小学校6年	松井 玲乃
		本宮まゆみ小学校6年	佐藤 圭悟
		五百川小学校6年	野田 龍成
		岩根小学校6年	茅場 凌那
		糠沢小学校6年	矢作 暁
		和田小学校6年	國分 葵妃
		白岩小学校6年	大内 夏月

	中学校の部	本宮第一中学校2年	菊地 将太
		本宮第一中学校2年	三條 大
		本宮第二中学校2年	高橋 希園
		本宮第二中学校2年	橋本 悠也
		白沢中学校3年	柴原 もも
		白沢中学校3年	飛田 望里

	高校生の部	本宮高等学校2年	橋本 未菜
--	-------	----------	-------

○ 大会宣言 本宮市教育委員会教育長 原瀬 久美子

(4) 参加者：300名

[事業の成果]

次世代の主演となる子どもたちが、心豊かにたくましく成長できるよう、「本宮市青少年健全育成推進大会」の開催を通して、青少年健全育成の活動に対する市民の理解を深めるとともに、家庭・学校・地域社会及び行政が一体となった市民総ぐるみ運動の実践として青少年の健全育成を図ることができた。

また、国際交流についての発表が多く、多文化共生による健全育成の有用性が確認できた。

[課題・改善点]

次世代を担う青少年の健全な育成を図るため、市内の小中学校・高校の理解と協力を得て、「本宮市青少年健全育成推進大会」を開催している。発表者の関係者以外の参加が多く、より多くの小中学生や市民の参加を呼びかけ、市民一体となって活動に取り組む姿勢を形成する必要性については、引き続き改善策を検討していきたい。

[自己評価判断理由] 担当課長

少年の主張・大会宣言など、青少年健全育成推進大会の開催を通して、青少年健全育成の活動に対する市民の理解を深めるとともに、青少年の健全な育成が図られた。

自己評価

A

[教育長又は教育部長評価]

青少年健全育成推進大会の開催により、本事業の重要性が市民に浸透してきている。少年の主張における発表内容も充実しており、市民総ぐるみ運動につながるものである。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	4	学校と地域を結ぶ社会教育活動の充実
事業名	2	放課後子ども教室推進事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

放課後に社会教育施設等を活用し、年間計画による一斉活動や子どもたちの要求に合わせた自由遊びの時間なども確保しながら活動指導員や安全管理員を配置し、子どもたちにスポーツ・文化活動などの体験活動を実施する。

[目的]

対象： 小学校児童
(何を・誰を)
 意図： 放課後等の子どもたちの安全で健やかな活動場所の確保を図るとともに、地域の人々と触れ合うことにより、考える力や社会のルールが身につくなど健全な育成が図れる。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	3,295
財源	
県支出金	3,295

[事務事業の活動実績]

放課後の子どもたちの安全で健やかな活動場所の確保を図るとともに、地域の人々と触れ合うことにより、考える力や社会のルールが身に就くなど健全な育成が図られた。

1. 本宮市遊友クラブ運営委員会の設置

- 運営委員会の開催 (2回開催・委員16名)
- コーディネーターの配置 (本宮地区3名・白沢地区1名)
- 1クラブ当り係員の配置 (活動指導員2～3名・安全管理員2～3名)

2. 実施状況(7ヶ所)

クラブ名	対象校	実施場所	曜日	児童数(名)	係員登録(名)
もとみや遊友クラブ	本宮小学校	本宮小学校	金	69	19
まゆみ遊友クラブ	本宮まゆみ小学校	本宮まゆみ小学校	木	42	18
ごひゃくがわ遊友クラブ	五百川小学校	五百川小学校	水	40	18
いわね遊友クラブ	岩根小学校	岩根地区公民館	水	30	10
ぬかざわ遊友クラブ	糠沢小学校	糠沢分館	木	55	14
わだ遊友クラブ	和田小学校	和田分館	水	36	12
しらいわ遊友クラブ	白岩小学校	白岩コミュニティセンター	月	42	16
合 計				314	107

3. 参加状況

クラブ名	実施回数	参加児童(延べ数)	参加係員(延べ数)
もとみや遊友クラブ	29	1,650	160
まゆみ遊友クラブ	30	1,091	148
ごひゃくがわ遊友クラブ	32	965	164
いわね遊友クラブ	32	757	190
ぬかざわ遊友クラブ	29	1,354	180
わだ遊友クラブ	32	861	161
しらいわ遊友クラブ	27	798	145
合 計	211	7,476	1,148

[事業の成果]

各遊友クラブでは、地域の方々と触れ合う機会を大切にしながら、地域の特性を活かした様々なプログラムにより活動しており、放課後の子どもたちの安心安全な居場所として、参加している子どもや保護者、または地域の方々から好評を得ている。

また、事業として地域に浸透し、地区の安全管理員・活動支援員等のボランティア協力員も増加している。

[課題・改善点]

児童の減少傾向にともない、登録児童数も微減となっている。活動指導員や安全管理員の確保が事業継続・深化に重要となっているため、引き続き係員の募集と確保、人材の育成に努めていきたい。

また、各小学校での行事が多いことから年間32回を実施できない地区が多かったが、今後さらに授業数の増加による実施回数の減少が懸念される。

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;">自己評価</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;">A</div>	<p>[自己評価判断理由] 担当課長 保護者及び地域の方々の理解をいただき放課後の安全安心な居場所として定着している。参加率は平成28年度が77.9%、平成29年度では79.7%と上昇しており、活動内容が充実してきたと考えられる。継続して事業を進めていきたい。</p> <p>[教育長又は教育部長評価] 放課後の児童の安全で安心な居場所づくり事業として定着している。各クラブで工夫を凝らしたプログラムが地域とのつながりの中で展開されていることを評価する。</p>
---	---

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	5	文化や芸術に親しみ活動する機会の充実
事業名	1	文化芸術行事開催事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

文化への興味と参加意識を向上させるため、優れた舞台芸術や映画の鑑賞を提供する。
また、スポーツの実技指導の機会を市民に提供する。

[目的]

対象： 市内小・中学校の児童生徒、一般市民
(何を・誰を)
意図： 優れた芸術や映画の鑑賞などを通して、知識や教養を深め、情操豊かな市民を育成するとともに、市民の生涯学習を推進する。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	3,614
財源	
国庫支出金	1,000
その他	1,127
一般財源	1,487

[事務事業の活動実績]

○各種事業

(1) 文化・スポーツ振興基金事業（市民のための芸術鑑賞実行委員会補助金）

内 容	「和泉元彌の狂言らいぶ」
開 催 期 日	平成29年12月16日（土）①14時～ ②18時～
来 場 者	①456人 ②363人
会 場	サンライズもとみや 大ホール
補 助 事 業 者	市民のための芸術鑑賞実行委員会
事 業 費	2,204,812円

(2) みんなの作品展（主催事業）

内 容	趣味や講座等で制作した作品の展示
開 催 期 日	平成29年12月1日（金）～12月7日（木） 7日間
出 品 内 容	出展者/市民・市内勤務者104人 作品数199点 来場者352人
会 場	中央公民館 展示ホール、第2研修室、第3研修室

(3) 芸術鑑賞教室公演委託事業（主催事業）

幼児から小学生まで成長段階にあわせた芸術鑑賞教室を開催し、舞台の楽しさを体験することができた。

内 容	幼保芸術鑑賞教室公演「王子様の耳はロバの耳 劇団なるにあ」
開 催 期 日	平成29年12月11日（月）～12月14日（木）
参 加 者	598人
会 場	保育所、幼稚園8カ所
事 業 費	432,000円

内 容	小学校芸術鑑賞教室公演「子象物語 トンキーよ永遠に」
開 催 期 日	平成29年9月7日（木）①10時20分～ ②13時30分～
参 加 者	412人
会 場	しらさわカルチャーセンター
事 業 費	518,400円

(4) 文化活動支援事業補助金

内 容	和泉元彌の狂言らいぶ
開 催 期 日	平成29年12月16日(土)
来 場 者	819人
会 場	サンライズもとみや
補 助 事 業 者	市民のための芸術鑑賞実行委員会
補 助 金 額	946,812円

内 容	2017年第5回カナリア映画祭
開 催 期 日	平成29年9月16日(土)～17日(日)
参 加 者	400人
会 場	サンライズもとみや
補 助 事 業 者	本宮の映画文化を継承する会
事 業 費	100,000円

(5) 本宮市民俗芸能大会実行委員会補助金

内 容	本宮市民俗芸能大会
開 催 期 日	平成29年12月3日(日)
来 場 者	600人
会 場	しらさわカルチャーセンター
補 助 事 業 者	本宮市民俗芸能大会実行委員会
補 助 金 額	1,000,000円

(6) もとみやかるた大会補助金

内 容	第5回もとみやかるた大会
開 催 期 日	平成29年9月30日(土)
出 場 者	123人(来場者327人)
会 場	サンライズもとみや
補 助 事 業 者	本宮むかしむかしの会
補 助 金 額	200,000円

[事業の成果]

子どもから大人そして親子を対象に、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供し、市民の文化芸術活動に対する意識向上が図られた。なお、アンケートの結果についても高い満足度の回答があった。
平成25年度から始まった「もとみやかるた大会」も継続され、新たな分野の開拓がなされ市民の文化活動に触れる機会の拡大が図られた。さらに「カナリア映画祭」も定着してきており、市民の多様な文化的ニーズにも対応することができた。

[課題・改善点]

今年度の文化芸術行事については、各事業とも予定の参加者を得ており、一定の成果を上げることができたといえる。今後も各事業について、実施後のアンケート調査をもとに実行委員会等との協議を経て、事業内容に工夫を加え、市民の積極的参加を促していきたい。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

多種多様な事業を行っている中で、観覧者に満足を与える事業を実施することができた。文化・スポーツ振興基金事業では、毎年多様な分野の企画がされており、市民の満足度は高いと思われる。

[教育長又は教育部長評価]

限られた予算の中で、市民の感性を刺激する事業がそれぞれに成功裏に展開できたものと評価する。

基本目標	Ⅲ	未来を創造し、生きがいにつながる生涯学習への支援
基本施策	6	本宮市の歴史と文化の継承と発信
事業名	1	文化財・史跡保存事業
担当課		生涯学習センター

[事業概要]

文化財保護法、本宮市文化財保護条例などに基づき、歴史的価値の高い文化財についての管理、調査、指定、公開、愛護思想の普及啓発、保存修理を行う。

[目的] 対象： 国・県・市指定文化財、天然記念物
(何を・誰を)

意図： 貴重な指定文化財・史跡を適切に管理保存し、後世に伝え遺す。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	1,290
財源	その他
	3
一般財源	1,287

[事務事業の活動実績]

文化財保護法、本宮市文化財保護条例などに基づき、歴史的価値の高い文化財についての管理、調査、公開、愛護思想の普及啓発、保存修理のための事業を行った。

- 文化財看板設置及び修繕
指定文化財案内板及び史跡・名勝などの説明板修繕（3箇所） 48,600円
・「伊藤長左衛門」 ・「功土壇」 ・「人取橋合戦」
- 指定文化財の修繕
申供養塔群修繕工事 464,400円
- 指定文化財「太郎丸供養塔」敷地内樹木伐採
シラカシ トウカエデ 各1本
樹木伐採費用 162,000円
- 指定天然記念物樹勢回復事業
・塩ノ崎の大ザクラ
柵・ロープ新調設置業務委託 140,400円
- 埋蔵文化財保存事業
・関畑遺跡試掘調査（集合住宅建設計画による事前の試掘調査）
試掘調査機械借り上げ料 356,400円

[事業の成果]

市内の文化財を巡視し、文化財の状態を確認すると共に適切な修繕を実施し、貴重な文化財を後世に伝承していく事業を実施した。
文化財看板の修繕3箇所、供養塔・天然記念物の修繕3箇所、試掘調査3箇所を実施した。

[課題・改善点]

文化財は民俗文化財から埋蔵文化財、天然記念物と広範囲にわたり、説明板の経年劣化や天然記念物の老化による衰えなどが多く見られるようになってきている。特に、樹木などは、樹勢の衰えの進行が早く定期的な観察と早期治療が必要であり、今後も継続していくことが求められる。
また、幅広い専門知識と経験が求められることから、若い次世代の後継者の育成が必要と考えられる。

<div data-bbox="177 203 323 237" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自己評価</div> <div data-bbox="177 237 323 329" style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">A</div>	<p data-bbox="359 143 710 176">[自己評価判断理由] 担当課長</p> <p data-bbox="395 176 1401 264">歴史的価値の高い文化財を後世に残していくために、修復や管理保存を実施することができた。また、天然記念物の樹勢回復も定期的の実施し樹勢回復に努めることができた。</p> <p data-bbox="359 271 667 304">[教育長又は教育部長評価]</p> <p data-bbox="395 304 1401 360">指定文化財等の保存について、計画的に進めることができている。また、埋蔵文化財の保存についても、開発事業者に対し適切な指導が行われている。</p>
--	--

基本目標	IV	安全で安心して学べる教育環境の確保
基本施策	1	安全な教育施設の整備
事業名	1	学校施設等耐震化推進事業
担当課		教育総務課

[事業概要]

市内の学校施設で昭和56年以前に建築された2階建て以上もしくは1棟の面積が200㎡以上のすべての施設について、耐震診断を行い、その結果に基づき耐震化工事を行う。

[目的]

対象： 本宮第一中学校、第3保育所
(何を・誰を)

意図： 地震で倒壊しない、児童・幼児が安心して過ごせる施設にする。
(事業のねらい、対象をどう変えるのか)

事業費・財源内訳

決算額	千円
	25,978
財源	その他
	25,978

[事務事業の活動実績]

●第3保育所施設

耐震化推進計画に基づき、本宮第一中学校旧体育館等の解体工事を実施した。第3保育所建設に係る工事実施設計業務を委託した。

取組内容

[本宮第一中学校旧体育館等解体工事] 28繰越明許事業 (H29.1.24~H29.6.6)
老朽化が著しい旧体育館及び屋外プール等を解体し、学校施設の安全と適正化を図るが、約4ヶ月の工期を要するため、繰越明許を行い解体工事を行った。

- ・旧体育館 鉄骨造2階 延床面積1,039㎡
- ・プール アルミ製プール 922㎡ (プールサイドを含む)
- ・その他 管理棟解体 延床面積60㎡、倉庫解体 延床面積14.9㎡
フェンス設置、跡地盛土整地外

[第3保育所建設工事実施設計業務委託] (期間 H29.11.30~H30.10.12)
構造規模：鉄骨造 地上1階建て 延床面積 1,000㎡
地質調査ボーリング業務 30.0m

[事業の成果]

学校施設等耐震化推進計画に基づき、本宮第一中学校旧体育館等の解体工事を実施し、小中学校の耐震化工事は完了した。

今後は耐震化を計画している第3保育所及び第2保育所のうち、今年度は第3保育所について建設場所を、本宮第一中学校グラウンドの南側に決定し、建設工事実施設計業務委託を発注をした。

[課題・改善点]

小中学校の耐震化事業が完了したため、今年度より第3保育所及び第2保育所耐震化事業を進めて行く。

自己評価
A

[自己評価判断理由] 担当課長

計画的に学校施設等の耐震化を計画通り進めており、今後も計画通り事業を進め、児童・生徒が安心して過ごせる教育環境の改善が図られた。

[教育長又は教育部長評価]

学校施設等耐震化推進計画に基づき、耐震改修工事が予定通りに進められており、児童生徒の安全確保と教育環境の向上が図られている。

基本目標	IV	安全で安心して学べる教育環境の確保
基本施策	2	安全・安心な教育環境の確保
事業名	1	学校給食放射性物質検査事業
担当課		幼保学校課

[事業概要]

給食の食材検査を実施する。

[目的] 対象： 学校給食
(何を・誰を)

意図：
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) 安全安心に提供する。

[事務事業の活動実績]

・セシウム134とセシウム137の合算値が10Bq/kg未満を独自基準値として毎食測定を実施する。
(※国の一般食品中の放射性物質の規制値は100Bq/kg)

・10Bq/kgを超えた食材数 . . . なし

事業費・財源内訳

決算額	千円
	9,995
財源	
一般財源	9,995

[事業の成果]

各施設で実施している学校給食の測定について、食材毎、1食丸ごと、1食分検査を行い市独自基準である10ベクレル未満であることを確認し、安全安心な給食提供を行った。

[課題・改善点]

各施設にて検査を行っており、集約して検査をすることが可能か検討したが、検査結果に要する時間や検体の輸送の課題により引き続き施設ごとに実施した。今後、市放射線アドバイザーの意見を参考にしながら検査の必要性を含め、検査全体の見直しの検討を進める時期にきている。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

食材ごと、1食丸ごとの放射性物質検査を毎食実施し、市の独自基準を超えることなく安全安心な給食を提供することができている。また、市のホームページに公表することで、保護者の安心感につながっている。

[教育長又は教育部長評価]

独自基準による放射性物質検査を継続的に実施し、児童生徒と保護者の安全・安心を確保できたと評価する。

事業名	教育委員会運営事業
担当課	教育総務課

[事業概要]

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき設置された教育委員会を運営し、教育行政を合議し執行する。

[目的]

対象： 市民、教育行政
(何を・誰を)

意図： 教育委員会の会議を開催し、教育に関する様々な施策を検討、決定
(事業のねらい、対象をどう変えるのか) することで本市教育行政の充実と向上を図る。

事業費・財源内訳

決算額	千円
	2,161
財源	
一般財源	2,161

[事務事業の活動実績]

1. 教育委員会の構成 5名（教育長、教育委員4名）

2. 教育委員会開催状況（開催日、議案等の内容）

会議名	期 日	出席者数	議案等の内容					合計
			人 事	施 策	条例規則	予算決算	その他	
定例会	29. 4. 26	5	4	2	5		8	19
定例会	29. 5. 15	5	1			1	7	9
定例会	29. 6. 27	5		1	3		14	18
臨時会	29. 7. 25	5		1				1
定例会	29. 7. 28	5	1	1	2		4	8
定例会	29. 8. 18	5		1		2	10	13
定例会	29. 9. 22	5					6	6
定例会	29. 10. 25	5			2		10	12
定例会	29. 11. 22	5		1		1	2	4
定例会	29. 12. 18	5			2		5	7
定例会	30. 1. 24	5		2			5	7
定例会	30. 2. 23	5			2	3	7	12
臨時会	30. 3. 5	3	1					1
定例会	30. 3. 27	5	1		2		5	8
合計	14回		8	9	18	7	83	125

3. 学校訪問実施状況

小中学校、幼稚園、保育所全施設を訪問し、学校経営及び教育活動概要、学校課題等の現状把握と要望の聞き取りを行い、教育活動の支援に努めた。

期 日	出席者数	訪 問 先
29. 6. 7	4	和田小学校、和田幼稚園
29. 6. 15	3	岩根小学校、岩根幼稚園
29. 6. 19	5	本宮小学校
29. 9. 1	4	本宮第二中学校
29. 9. 25	5	第1保育所、本宮まゆみ小学校
29. 10. 5	5	白沢保育所、白沢中学校
29. 10. 10	5	糠沢幼稚園、糠沢小学校
29. 11. 14	5	白岩小学校、白岩幼稚園
29. 11. 15	5	五百川小学校、五百川幼保総合施設、第2保育所
29. 11. 21	5	第3保育所、本宮第一中学校

4. 視察研修の実施

東北六州市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会に参加し、他市町村教育委員等との交流及び情報交換を行った。

研修月日：平成29年7月13日（木）～14日（金）

研修会名：平成29年度東北六州市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会

研修会場：秋田県秋田市「秋田キャッスルホテル」

[事業の成果]

教育委員会定例会等の会議、保育所・幼稚園・小中学校への訪問事業、各種研修会への参加など、教育事情の把握や改善に努めた。また、教育委員会の会議公開及び会議録を市ホームページへ公開することにより、教育委員会の透明化を図った。

特に学校等訪問においては、教職員との分科会形式による懇談会を実施するなど、現場の声を聞き取り、教育活動の支援及び教育環境の整備に努めた。

「総合教育会議」では、総合計画と教育大綱（教育振興基本計画）とのすり合わせや、コミュニティースクール（学校運営協議会制度）の導入などについての協議・調整を行った。

[課題・改善点]

教育委員会の透明化を図るため、教育委員会の会議録を市のホームページへ公開しているが、スムーズな公開に努めていきたい。

また、総合教育会議において、引き続き市長と教育課題等について、協議・調整を行っていく必要がある。

自己評価

A

[自己評価判断理由] 担当課長

教育委員会の円滑な運営と会議録をホームページへ公開し、透明化が図られ、総合教育会議の開催により、教育行政における諸課題に適切に取り組むことができた。

また、教育行政の充実と向上を図るため、市内小中学校・幼稚園・保育所の学校訪問を実施した。

[教育長又は教育部長評価]

教育行政の中立性と安定性の確保、指導行政の重視、教育行政と一般行政の調和、生涯学習など教育行政の一体的推進により、「つながる共育のまち もとみや」の実現に向けた委員会活動が行われた。